箱　崎　60

－箱崎遺跡第 95 次調査報告－

福岡市埋蔵文化財調査報告書 1425 集

２０２１

福岡市教育委員会

序

玄界灘に面し古くから大陸との文化交流の玄関口であった福岡市には、豊かな自然と文化が残されています。その中でも東区は大陸との交流で古くから栄え、遺跡も多く存在しています。これらを保護し、未来へと伝えていくのは本市に課せられた責務であります。しかし、近年の著しい都市化による市街地の拡大により、その一部が急速に失われつつあることもまた事実です。福岡市教育委員会は開発によってやむを得ず失われていく遺跡について、事前の発掘調査を行い、記録の保存に努めています。

今回報告する箱崎遺跡の発掘調査報告書は共同住宅建設に伴う調査成果についての記録です。この調査では古代末から中世の集落を確認しました。本書が文化財保護への理解と認識を深める一助となり、また研究資料としてご活用頂ければ幸いに存じます。

最後に発掘調査から報告書の刊行に至るまで、事業者様をはじめとして多くの方々のご理解とご協力を賜りましたことに対して心から謝意を表する次第であります。

2021年3月25日

福岡市教育委員会
教育長　星 子 明 夫

例　言

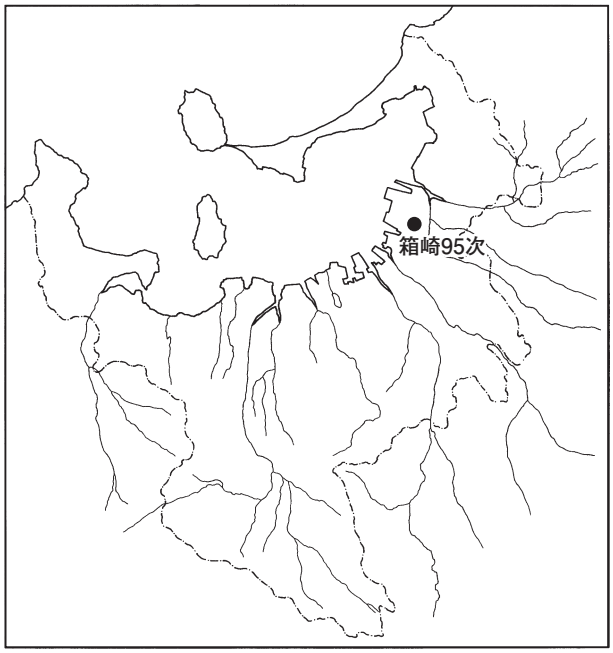
□本報告書は東区箱崎1丁目2672、2684 － 1の共同住宅建設工事に伴って2019 年3月11日から2019年5月29日にかけて発掘調査を行った箱崎遺跡第95次調査の報告書である。
□本書に収録した発掘調査は福岡市経済観光文化局の三浦悠葵と屋山洋が担当した。
□遺構実測は三浦・屋山が、製図を屋山が担当した。
□本書で用いた方位は磁北である。
□本書に関わる図面・写真・遺物など一切の資料は福岡市埋蔵文化財センターに収蔵・保管される予定である。
□貿易陶磁の分類は大宰府条坊跡ＸＶ－陶磁器分類編－（2000年）太宰府市教育委員会を参照した。

遺跡調査番号	1842	遺跡番号	2639	分布地図番号	箱崎34
調査地地番	福岡市東区箱崎1丁目2672、2684 － 1				
開　発面積	600.15㎡	調査面積	186㎡	調査原因	共同住宅建設
調査期間	20190311　～　20190529			担当者	三浦悠葵・屋山洋

箱　崎　60

－箱崎遺跡第 95 次調査報告－

福岡市埋蔵文化財調査報告書 1425 集



遺跡略号　HKZ-95

調査番号　1842

2021

福岡市教育委員会

目次

Ⅰ．はじめに…… 1
Ⅱ．調査の記録…… 1
1）井戸 …… 5
2）掘立柱建物 …… 15
3）土坑 …… 15
4）溝 …… 26

挿図

第 1 図　遺跡分布図 …… 2
第 2 図　調査地点位置図 …… 2
第 3 図　調査範囲図 …… 3
第 4 図　1 面全体図 …… 4
第 5 図　2 面全体図 …… 5
第 6 図　3 面全体図 …… 6
第 7 図　4 面全体図 …… 7
第 8 図　5 面全体図 …… 8
第 9 図　6 面全体図 …… 9
第 10 図　調査区東壁南側土層図 …… 10
第 11 図　SE0225・0226 実測図 …… 11
第 12 図　SE0336 実測図 …… 12
第 13 図　SE2055 実測図 …… 13
第 14 図　SE2096・2097 実測図 …… 14
第 15 図　SE2060 実測図 1 …… 16
第 16 図　SE2060 実測図 2 …… 17
第 17 図　SE2060 実測図 3 …… 18
第 18 図　SE2060 実測図 4 …… 19
第 19 図　SB01 実測図 …… 20
第 20 図　SK0122 実測図 …… 21
第 21 図　SK0122 出土遺物 …… 22
第 22 図　SK0174 上層実測図 …… 23
第 23 図　SK0174 下層実測図 …… 24
第 24 図　SK0174 出土遺物 …… 25
第 25 図　土坑 1 …… 27
第 26 図　土坑 2 …… 28
第 27 図　土坑 3 …… 29
第 28 図　土坑 4 …… 30
第 29 図　土坑 5 …… 31
第 30 図　土坑 6 …… 32
第 31 図　土坑 7 …… 33
第 32 図　SD2001 実測図 1 …… 34
第 33 図　SD2001 実測図 2 …… 35

図版目次

図版 1　1）Ⅰ区 1 面全景（西から）　2）Ⅱ区 1 面全景（東から）
図版 2　1）Ⅰ区 2 面全景（西から）　2）Ⅱ区 2 面全景（東から）
図版 3　1）Ⅰ区 3 面全景（西から）　2）Ⅱ区 3 面全景（東から）
図版 4　1）Ⅰ区 4 面南半（西から）　2）Ⅱ区 4 面南半（東から）
図版 5　1）Ⅰ区 5 面南半（西から）　2）Ⅰ区 5 面北半（西から）
図版 6　1）Ⅱ区 6 面南半（東から）　2）SE2055（北から）　3）SE0225（西から）
4）SE0226（北から）　5）SE0336 井筒（東から）
図版 7　1）SE2060（北東から）　2）SK0122 上半土層（東から）
3）SK0122 下半土層（東から）　4）SK0122 完掘（北から）
5）SK0174 上面（西から）　6）SK0174 焼土面上遺物出土状況（南から）
7）SK0174 焼土面（南から）　8）SK0174 下層（西北から）
図版 8　1）0066（0097）（北から）　2）0072（東から）　3）0096（東から）
4）0156（北から）　5）0175 検出状況（北から）　6）2027（北から）
7）2033（東から）　8）2139（西から）
図版 9　1）0278（北から）　2）0295（南西から）　3）2173（北から）
4）2199（北から）　5）SK0162（南から）　6）SK2035（北から）
7）SK2057（西から）　8）SK2058（南から）
図版 10　1）0182 土層（北から）　2）SE2060 石臼出土状況
3）2210 蛸壺出土状況（東から）　4）SD2001 土層（東から）
5）2001 下層 B（南から）
図版 11　1）調査区東壁南半（西から）
2）焼土ブロック整地層下白色粘土整地層上面遺構検出状況（西から）
図版 12　1）調査区東壁土層部分 1　2）調査区東壁土層部分 2

Ⅰ．はじめに

1　調査に至る経緯

平成 30 年（2018 年）5 月 31 日付けで東区箱崎 1 丁目 2672、2684 － 1 の共同住宅建設に伴う埋蔵文化財有無の事前調査依頼（30 － 2 － 196）が経済観光文化局埋蔵文化財課に提出された。申請地は周知の埋蔵文化財包蔵地である箱崎遺跡内に位置しているため 10 月 30 日に重機を使用したトレンチ調査を行い、遺構の存在を確認した。その結果を元に原因者側と協議を行い、平成 31 年（2019 年）3 月 11 日から令和元年（2019 年）5 月 29 日の期間で発掘調査を行なった。調査期間中は水道・電気の設置など原因者及び関係各位のご協力を頂いた。

2　調査の組織

調査委託　個人

調査主体　福岡市教育委員会（発掘調査　平成　・令和元年度　：整理報告　令和 2 年度）

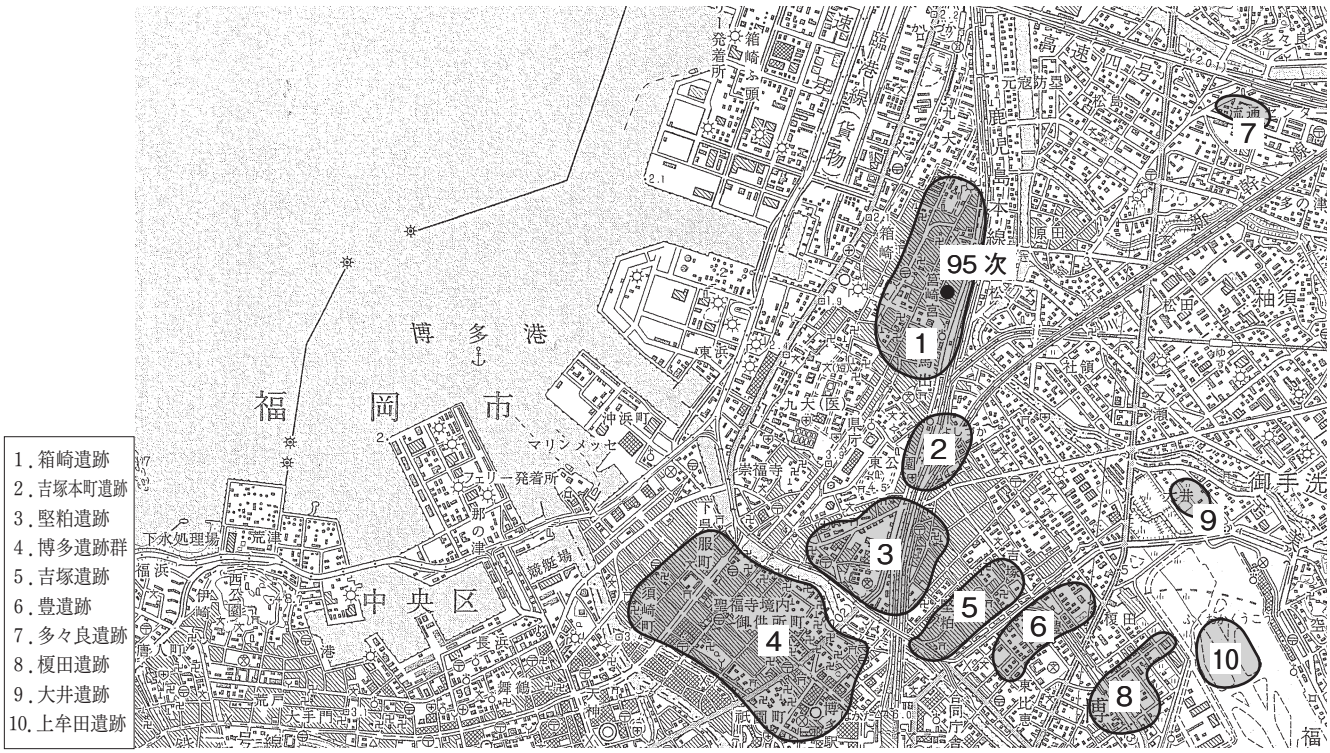
調査統括　福岡市経済観光文化局文化財部埋蔵文化財調査課

埋蔵文化財調査課長	大庭康時（平成 30 年度）
	菅波正人（令和元・2 年度）
同課調査第 1 係長	吉武　学
庶務　埋蔵文化財審査課管理係	松原加奈枝（平成 30 年度）
	（令和元・2 年度）
調査担当　埋蔵文化財調査課	屋山　洋

Ⅱ．調査の記録

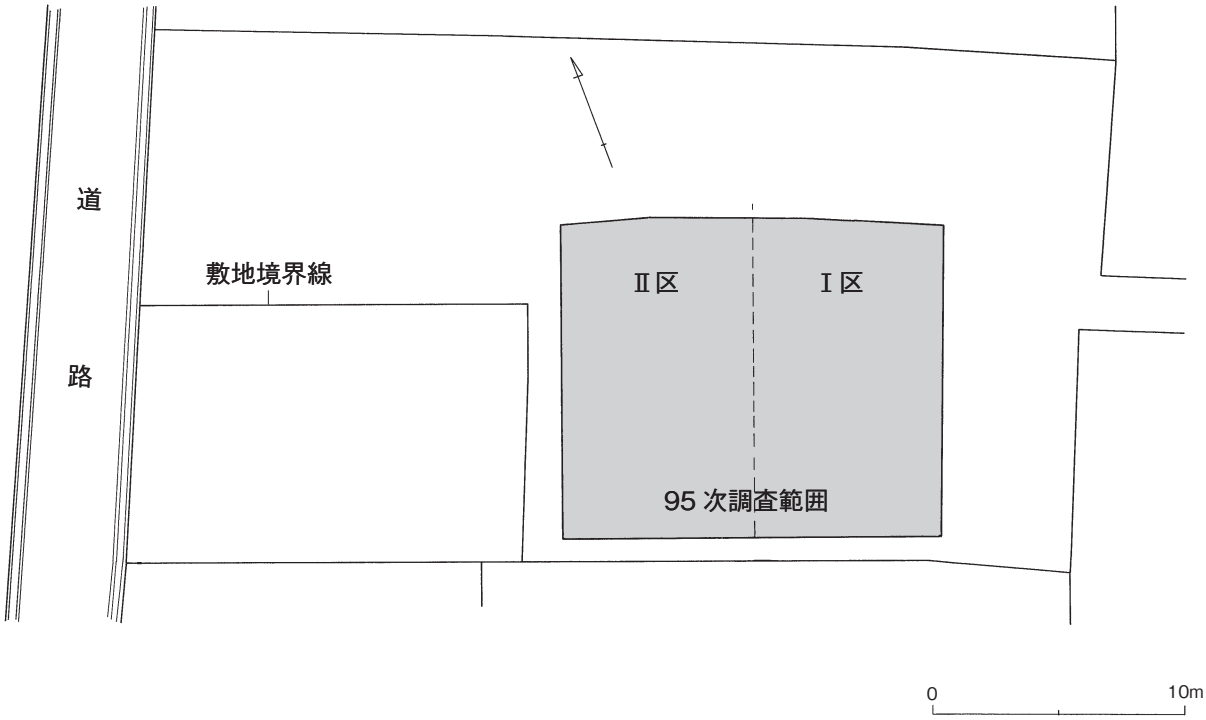
1　調査の経過

申請地の敷地面積は 600.15 ㎡で全体が開発対象であるが、駐車場など掘削を伴わず埋蔵文化財に影響を及ぼさない部分は調査対象地からはずし、建物基礎により破壊される 192.3 ㎡を調査対象とした。実際には隣地建物に近接する西側と南側は若干の引きをとったため実際の調査面積は 186 ㎡となった。調査は廃土置場の事情からⅡ区にわけ、東側をⅠ区、西側をⅡ区とし、Ⅰ区から発掘調査を開始した。当初は調査面を 3 面に設定していたが、表土剥ぎの時に焼土ブロックによる整地層を 3 層とその上下の整地層の存在が判明したことから、焼土ブロック整地層の時期を明確にするためには焼土層の上面と下面、または下側の整地層での調査が必要と考えて調査面を 6 面に変更した。調査はまず事前の確認調査の結果から近代の攪乱を受けている現地表面から深さ 35 ㎝程を重機ですき取り、その面を第 1 面とした。その後の第 6 面まではすべて人力で掘り下げた。第 1 面の標高は北東端で 4.2 ｍを測る。第 2 面は焼土ブロック整地層の上面で標高は 4.0 ｍ、第 3 面は焼土ブロック整地層の下面で標高 3.9 ｍ、第 4 面は整地層の下で標高 3.5 ｍ、第 5 面は古代盛土下面（茶色砂上面）であるが、茶色砂は調査区北側では整地時に削平され、消失している。砂丘面は南側に傾斜しており、調査区中央から南端では茶色砂層がみられた。そのため北側では遺構埋土が茶色砂のものを 5 面目の遺構とした。標高は南側で 3.2 ｍを測る。第 6 面は遺構は南西部のみの遺存で標高は 3.0 ～ 3.2 ｍ前後である。砂丘面の標高は北東端で標高 3.5 ｍ以上、南側端 3.0 ｍと 50 ㎝差だが、北側は茶色砂とともに砂丘面も削られており、本来の高低差は大きかったと推定される。調査は3月11日にⅠ区表土の鋤取りを行っ



第１図　遺跡分布図（1/50,000）

第２図　調査地点位置図（1/4,000）

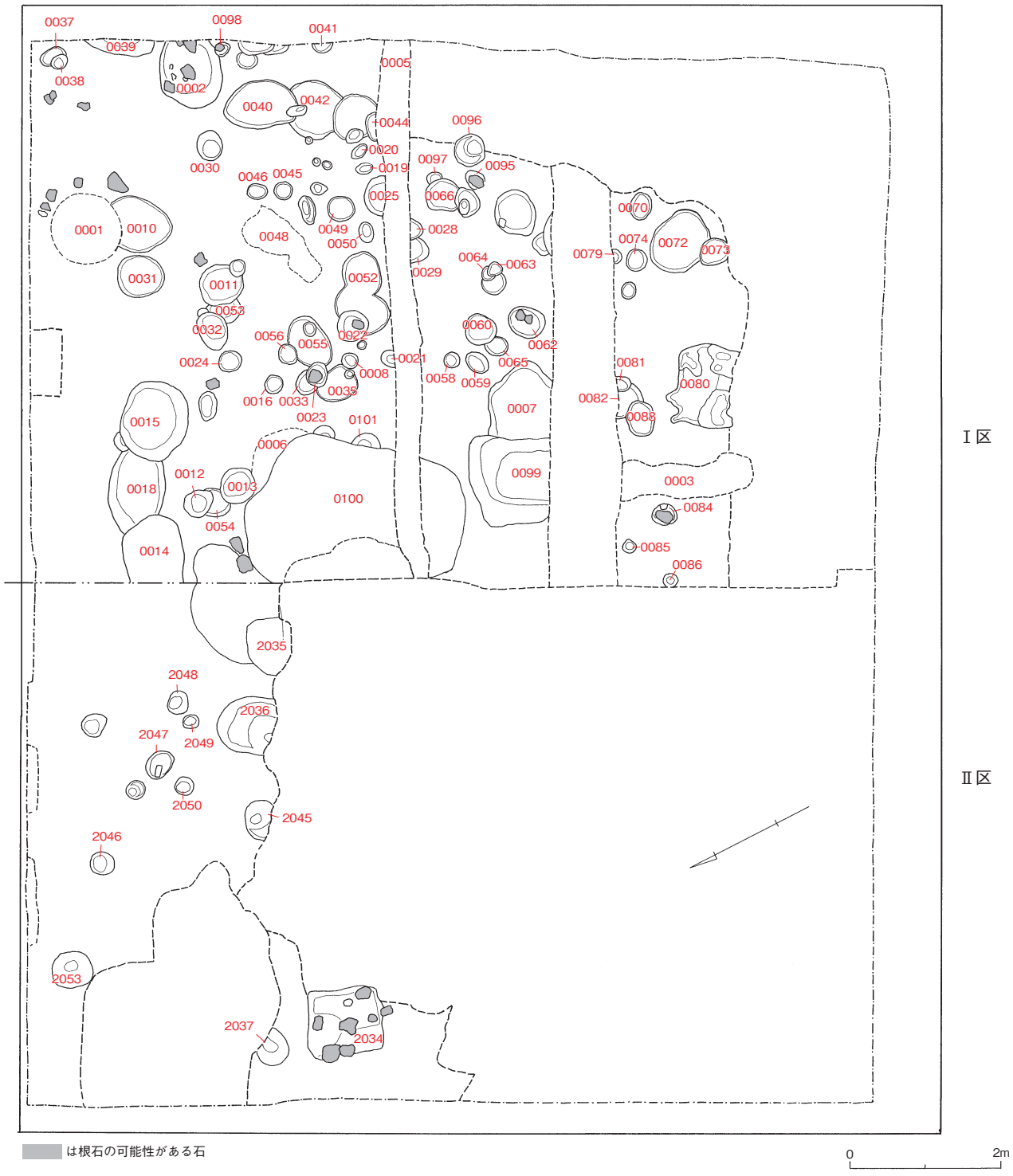


第３図　調査範囲図（1/300）

た後、3 月 12 日から 4 月 17 日までⅠ区の調査を行った。調査は電源の問題からベルトコンベアが使用できず廃土はすべて人力で排出したため、第 5 面になると地表面まで 1.5 ｍと深くなり、廃土搬出の手間は調査に支障をきたした。4 月 17 日に重機を使用して打って返しを行い、4 月 18 日からⅡ区の調査を開始した。5 月 28 日に第 6 面の調査を終え、翌 29 日に機材の撤去をしてすべての作業を終了した。

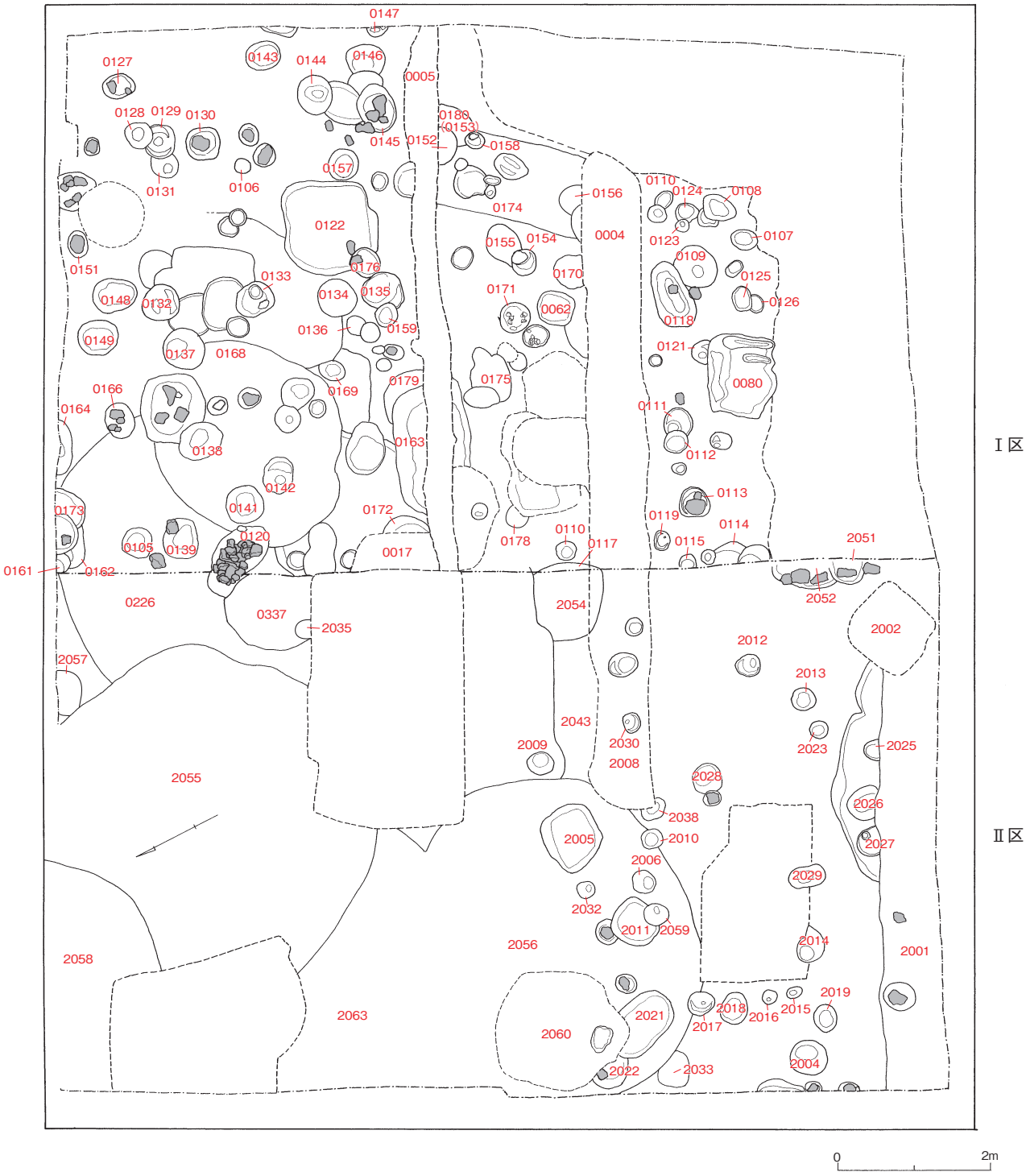
2　調査の概要

第 1 面は南側縁は近代の溝、Ⅱ区は現代建物基礎によって南側 3/4 は削平を受けていた。遺構は柱穴などの比較的径の小さな掘り込みを主とし、時期は 14 世紀～近代を主とする。2 面目は焼土ブロック整地層（第 10 図 30・31 層）の上面で検出したもので 13 世紀～14 世紀を主とする。焼土ブロック整地層は細かく割られた焼土塊と暗褐色砂質土、炭化物を主とした層で、焼土片の一部に木舞孔の痕跡が見られることや炉壁とは焼け方が異なることなどから土倉などの壁が火を受けたものと思われるが、これが広い範囲でみられるのは火災後に焼けた壁を砕いて整地を行ったものと考えられる。この整地層は北西側では後世の掘り込みにより削平されていたが、調査区南東から中央部では良好に遺存していた。2 面目で検出した遺構は火災後に掘り込まれたもので埋土に焼土ブロックを含むものも多い。遺構は柱穴が多く、土坑が数基程度で柱穴は根石を持つものが多い。井戸は北西に集中しており、この時点では各井戸ごとの掘り込みはきちんと把握できなかったが、井戸の多くはこの面から掘り込まれたものと思われる。3 面は焼土ブロック整地層を除去し、薄い白色粘土層の上面で検出を行った。12 世紀～13 世紀を主とする。柱穴のうち数基は柱痕跡に焼土ブロックが入り込んだものもみられ、これらは火災時に焼け残った柱を抜いたところに整地の焼土が入り込んだもので、火災時に建っていた建物の柱と推定される。第 3 面では井戸の切り合いがある程度明確になってきたため、井戸の掘り下げを行った。北西隅は井戸の切り合いが激しい。第 4 面は焼土ブロック層下の整地層は厚さが 40 ㎝強あり、その下面を調査面とした。遺構は柱穴と土坑を主とし、11 世紀後半～12 世紀代



第 4 図　1 面全体図（1/80）

を主とする。第 7 図では柱穴が東西方向に並ぶ傾向がみられる。第 5 面は古代盛土層を除去して茶色砂上面を遺構面とした。第 6 面は砂丘面を遺構面とした。各遺構から出土した遺物の多くは 11 世紀後半～13 世紀のもので、この時期に多くの土坑や掘立柱建物などが立てられたと考えられるが、それらは井戸を主とする後世の遺構により消滅したものと思われる。

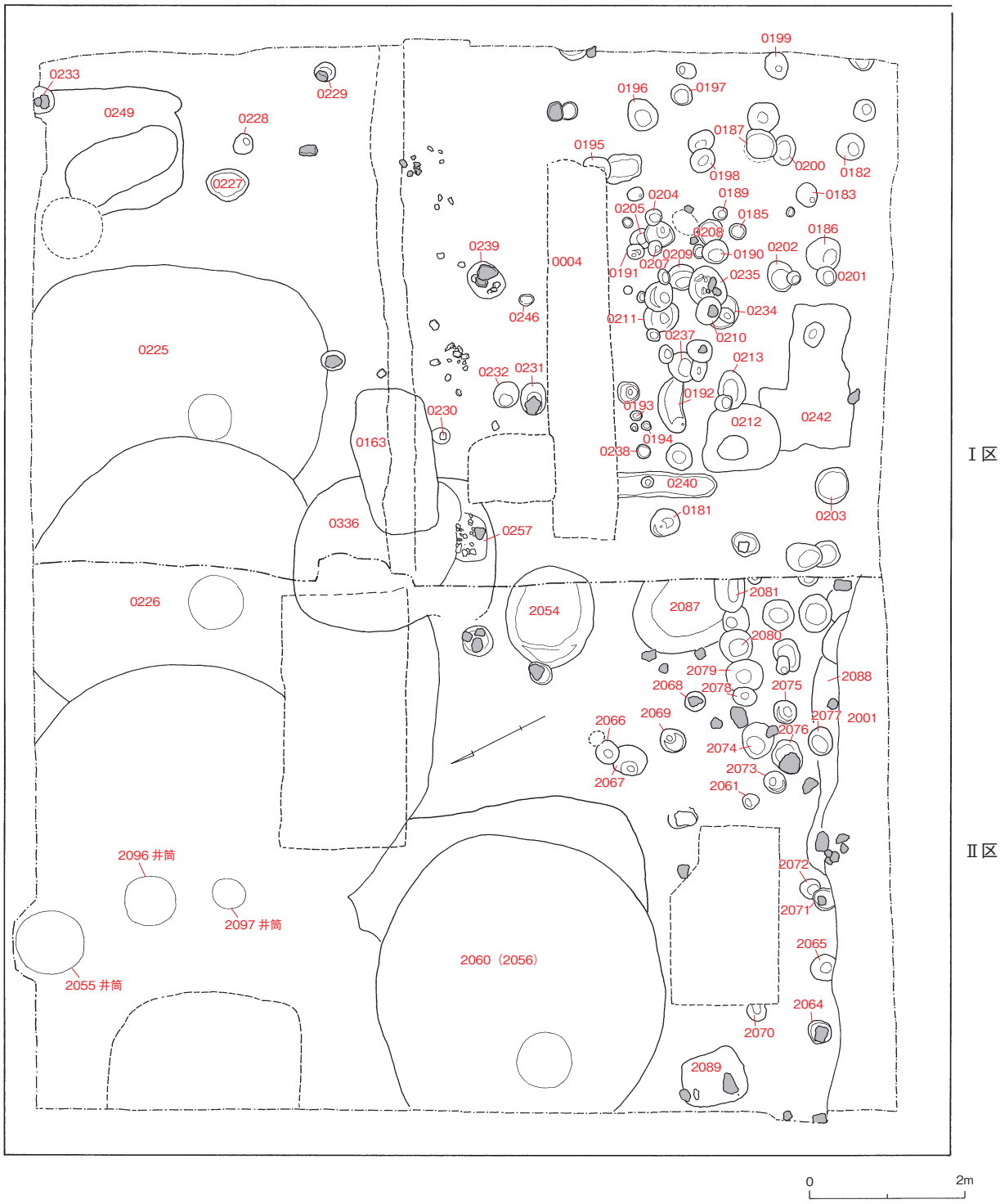


第５図　２面全体図（1/80）

３　遺構と遺物　今回報告した遺構の出土遺物は表（P34～36）に詳細を記載した。

1）井戸

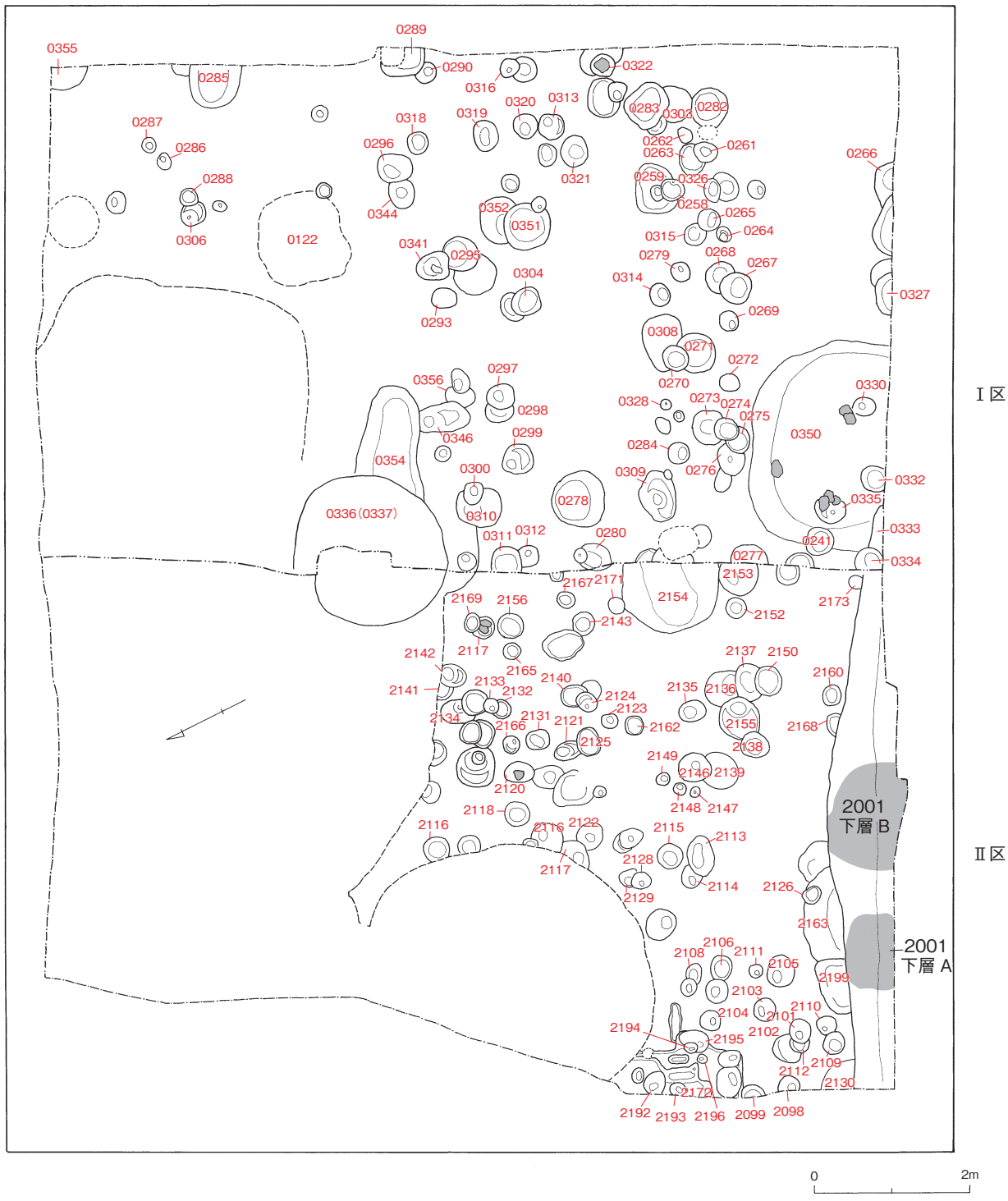
SE0225（第 11 図　図版 6-3）　第 3 面に位置する。約 4.5 × 3.2 ｍの平面隅丸方形で検出面から 2.8 ｍ下に平坦面があり、その中央部を 60 ㎝程掘り下げている。井筒の痕跡はなかった。遺物の多くは



第６図　３面全体図（1/80）

12 世紀～13 世紀だが 14 世紀の青磁片が若干含まれる。001 は陶器小盤Ⅱ類、002 は土師皿、003・004 は瓦質鉢である。005 は砥石、006 は滑石製石鍋の再加工品である。

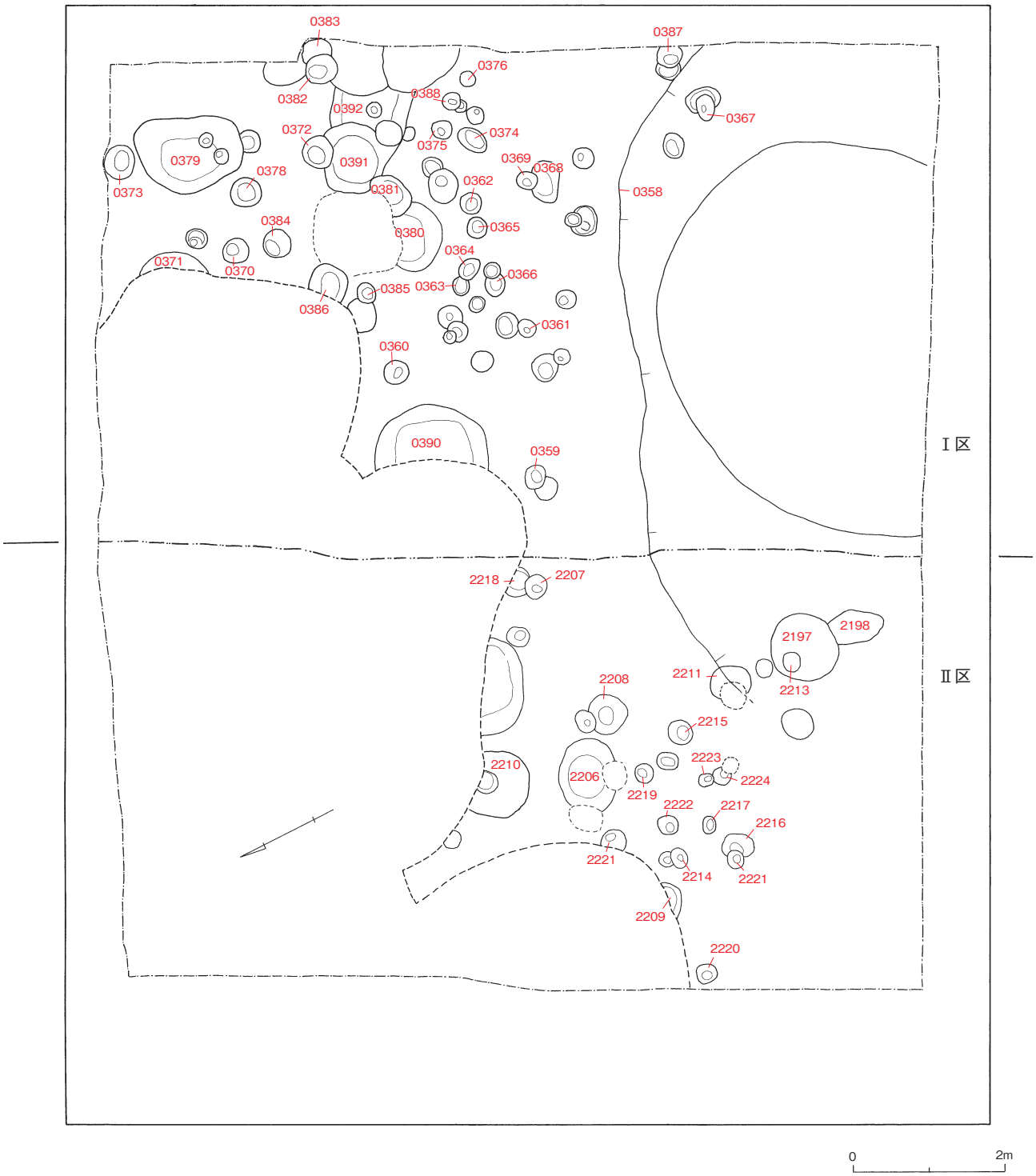
SE0226（第 11 図　図版 6-4）　第 2 面で検出した。現存南北 3.4 m、東西 3.1 mを測る。検出面から 1.1 m下に平坦面があり、中央に径 1.5 mの縦孔を深さ 1.8 m以上掘り下げている。井筒は木桶の



第７図　４面全体図（1/80）

痕跡が残る。湧水のため底面は確認できなかった。白磁碗や陶器大甕などが出土しているが、もっとも新しい遺物は龍泉窯系青磁碗Ⅱ類で 13 世紀と推定される。

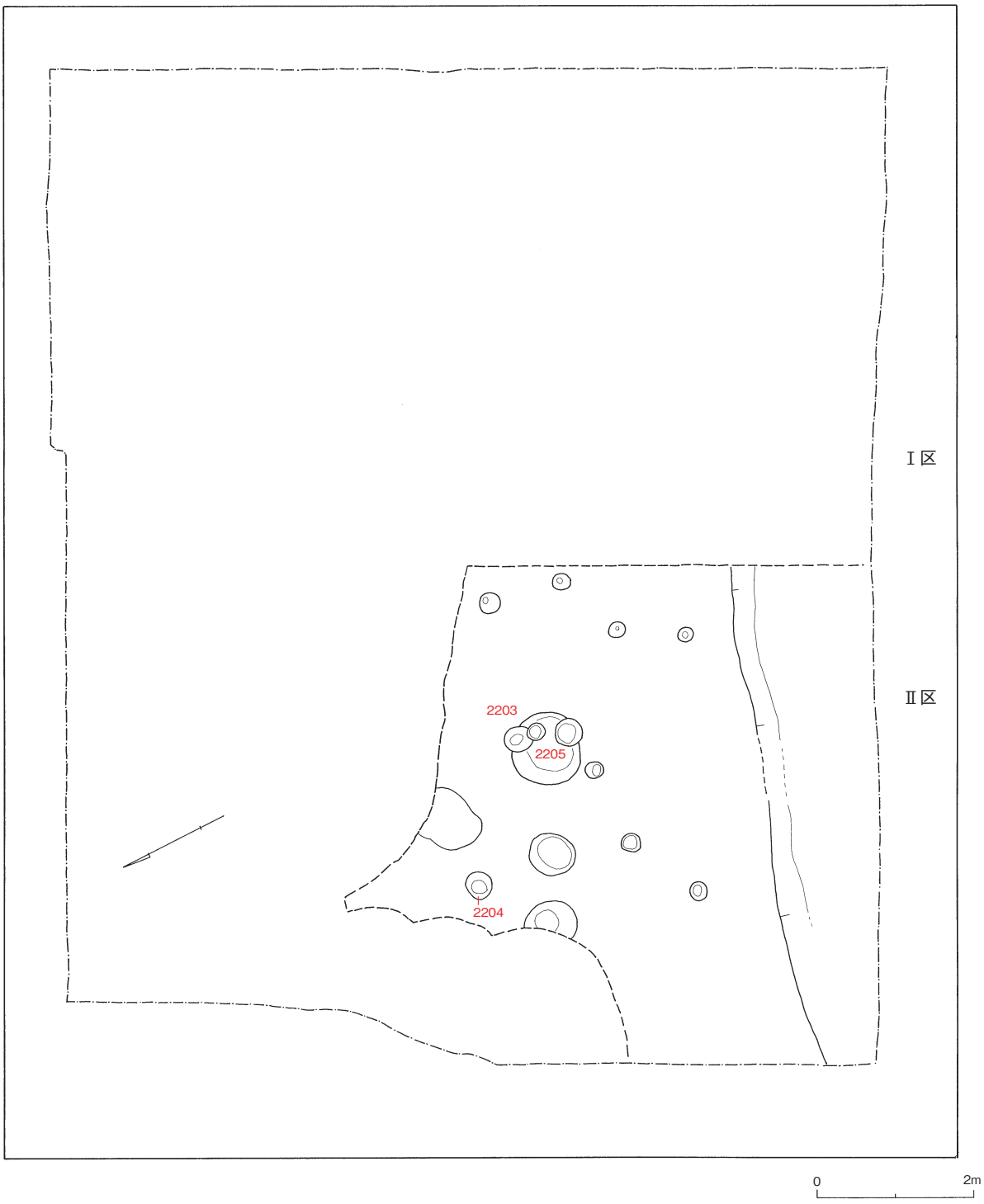
SE0336（第 12 図　図版 6-5）　３面目で検出した。平面楕円形で 2.3 × 2.0 ｍを測り、検出面から 2.8 m掘り下げている。井筒は木桶の痕跡が残る。埋土は炭化物を多く含む灰色土で炉壁や土鍋などが出



第８図　５面全体図

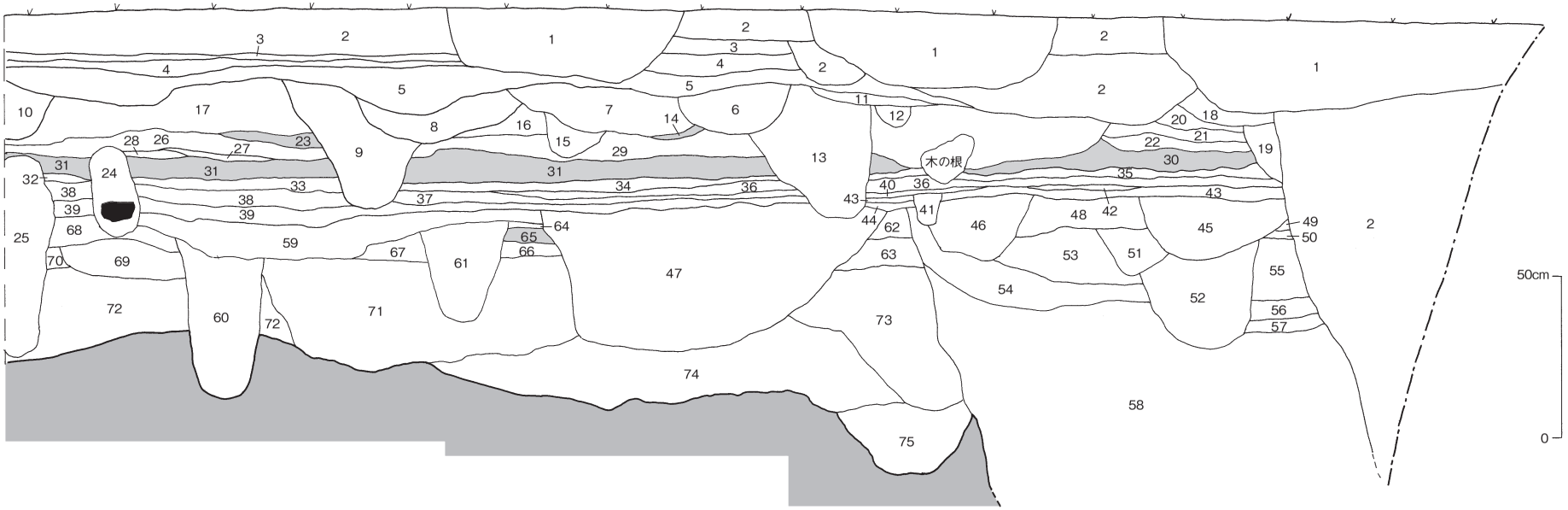
土した。13 世紀頃と推定される。010・011 は古代の須恵質瓦である。

SE2055（第 13 図　図版 6-2）　２面で検出したが SE0226 との切り合いが明確になったのは第３面である。堀方は井筒 2055、2096、2097 の３基が切り合っていて不明瞭である。井筒は木桶の痕跡があり、径 90 ㎝を測る。木桶の底面標高は約 0.3 ｍで 20 ㎝ほど上が湧水点である。出土遺物。012



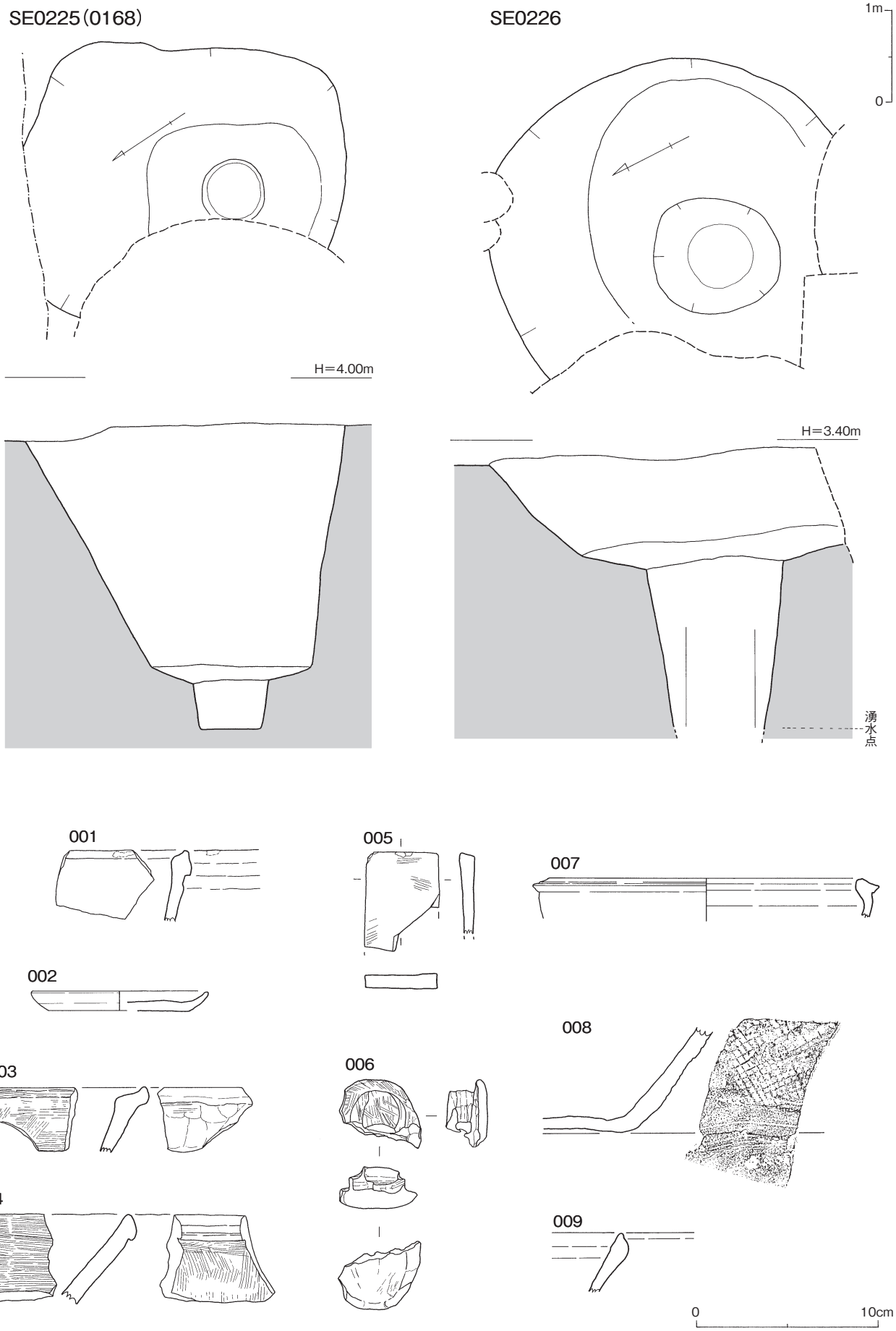
第９図　６面全体図

は滑石製人形で高さ 5.4 ㎝を測る。烏帽子を被り目鼻眉を凹線で現す。013 は土師皿で径 7.8 ㎝、高さ 1.5 ㎝を測る。底面は回転糸切りで板状圧痕はない。014 は陶器甕で復元口径 13 ㎝を測る。釉は黄褐色で口縁に目跡がある。015 は陶器甕で復元口径 16.2 ㎝を測る。鈍い黄褐色を呈す。016 ～ 018 は陶器盤で釉は黄褐色を呈す。019・020 は須恵質の鉢で、019 は復元口径 28.4 ㎝を測る。遺物は 13 世

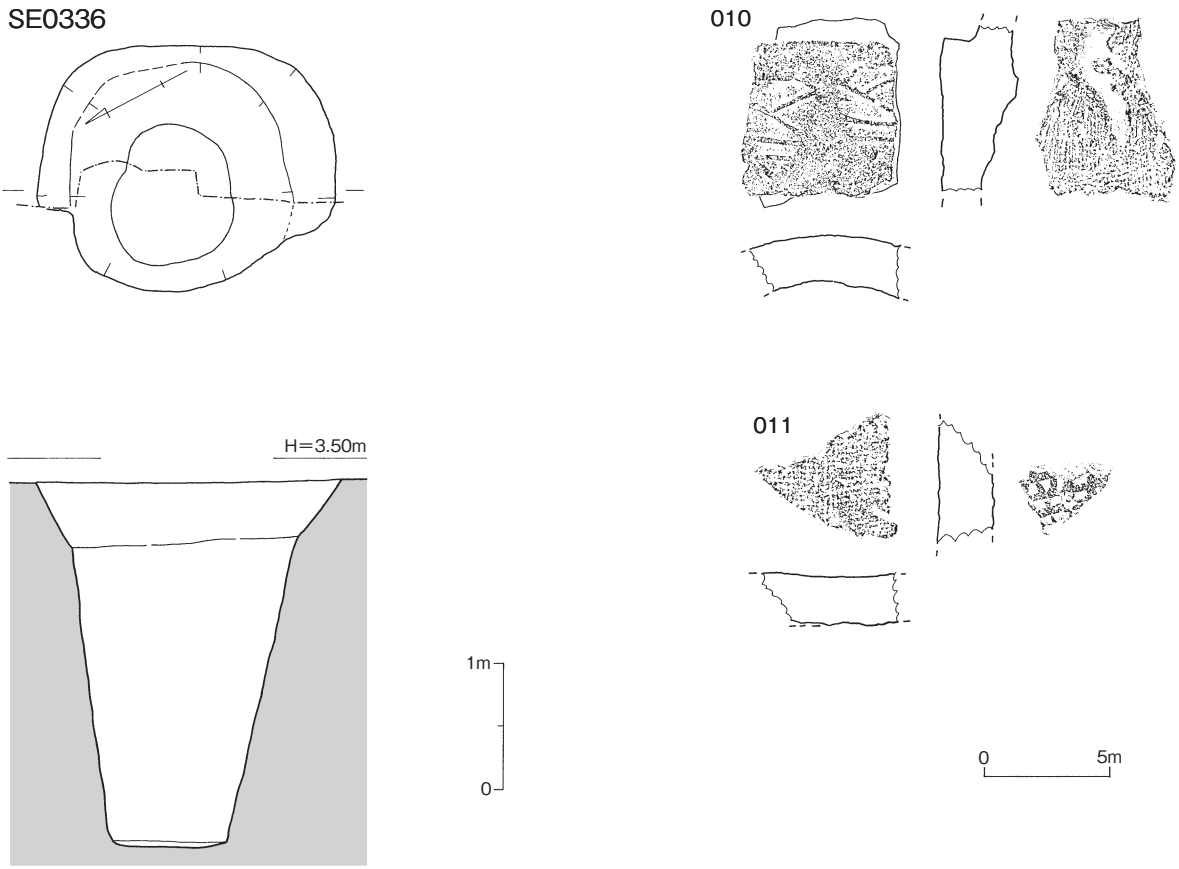


1．現代攪乱
2．現代盛土
3．暗灰色土　近現代
4．黄色粘土　近代　土間？
5．暗灰褐色土　近代整地層
6．暗灰褐色土　白色粘土ブロックを多く含む
7．暗～黒褐色土
8．褐色土　白色粘土ブロック・炭化物小片含む
9．暗褐色土　炭化物・焼土粒含む
10．褐色土　炭化物含む
11．暗褐色土　炭化物小片含む
12．暗灰褐色土
13．暗褐色土　白色粘土ブロック・焼土ブロック含む
14．炭化物層
15．暗黄褐色粘土
16．暗灰褐色土
17．暗灰褐色土　白色粘土ブロックを多く含む
18．暗黄色粘土　近代整地土
19．暗灰砂質土
20．暗灰色土　炭化物小片含む
21．炭化物層
22．暗褐色土
23．上半炭化物層　下半は焼土面
24．柱穴堀方
25．柱穴堀方
26．褐色砂
27．黄白色砂
28．暗灰色土
29．灰色土　黄色粘土ブロック小片含む
30．焼土ブロック整地層
31．焼土ブロック整地層
32．白色粘土層
33．灰色砂質土と黄色砂の互層　中世整地土
34．白色粘土層と灰色粘土層の互層
35．黄白色粘土層
36．炭化物粉層
37．焼土ブロック整地層
38．白色粘土層
39．暗灰色土
40．暗褐色土　焼土・白色粘土含む
41．褐色砂質土
42．暗灰色土
43．暗灰褐色土　炭化物を含む
44．暗灰褐色土　炭化物を含む
45．褐色砂質土
46．灰茶褐色土　焼土ブロック含む
47．暗褐色土　炭化物小片含む
48．褐色砂質土
49．黄白色粘土
50．炭化物粉層
51．茶褐色砂質土　炭化物小片含む
52．暗褐色土　焼土ブロック・炭化物片を多量に含む
53．茶褐色砂
54．黄白色砂質土
55．暗灰褐色土
56．黄白色砂質土
57．暗灰色粘質土
58．黄色砂と褐色砂の互層　井戸堀方
59．灰色土　粘土粒を多く含む
60．黄色砂　焼土ブロック小片多く含む
61．灰色砂質土　黄色粘土ブロック含む
62．灰色土　炭化物小片含む
63．暗灰褐色土
64．暗黄色砂
65．焼土ブロック層
66．黄色砂
67．黄色粘土層
68．灰色土　黄色粘土粒を少量含む
69．灰色土　厚さ２～３㎜の黄色粘土層を６層含む
70．黄色砂
71．茶褐色砂質土
72．黄褐色砂　水平方向に茶褐色土のスジが入る。中世盛土
73．72層に似る。若干暗い
74．72層とほぼ同じ
75．灰褐色土　炭化物・焼土ブロック含む

第10図　調査区東壁南側土層図（1/20）



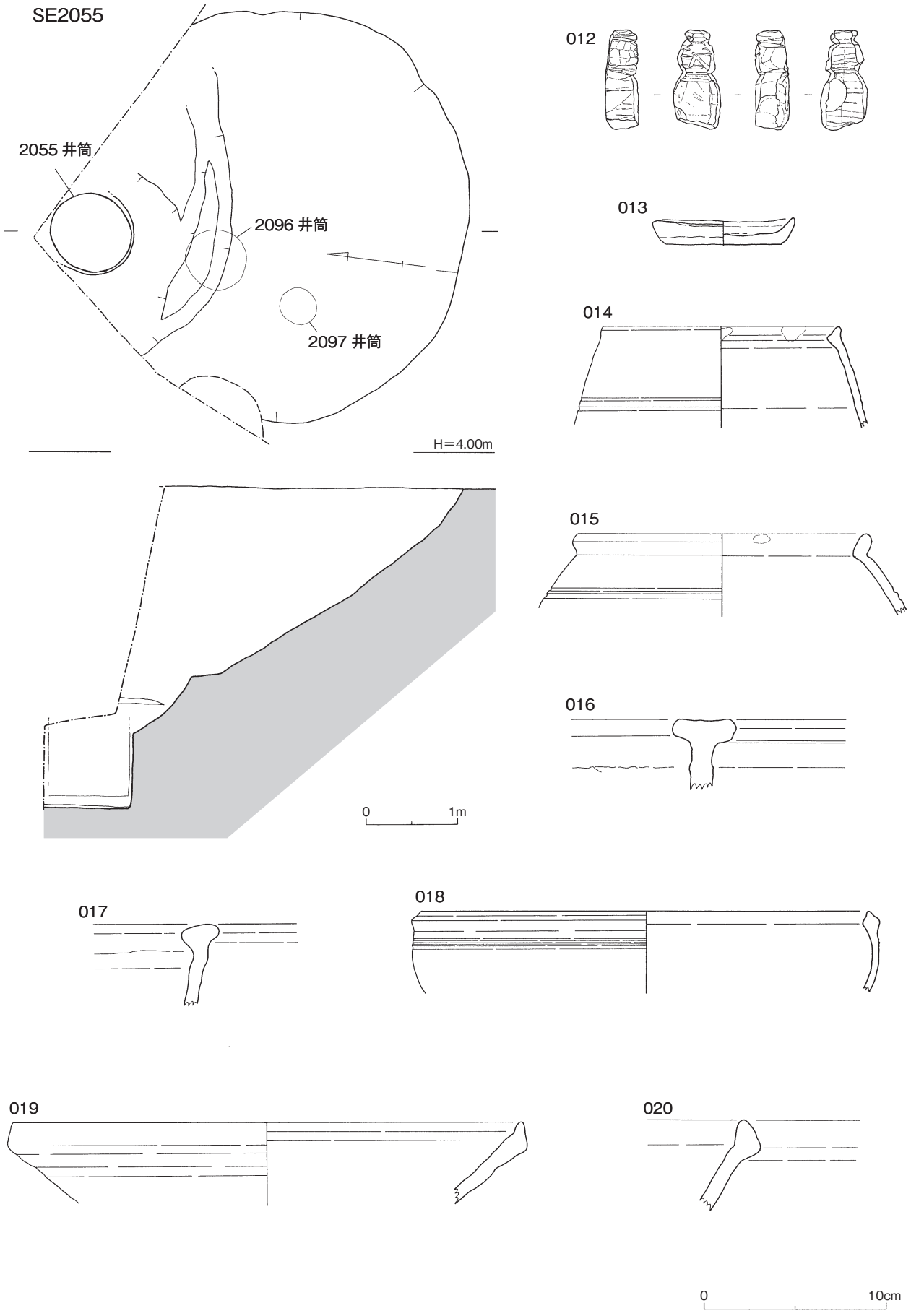
第 11 図　SE0225・0226 実測図（1/60・1/3）



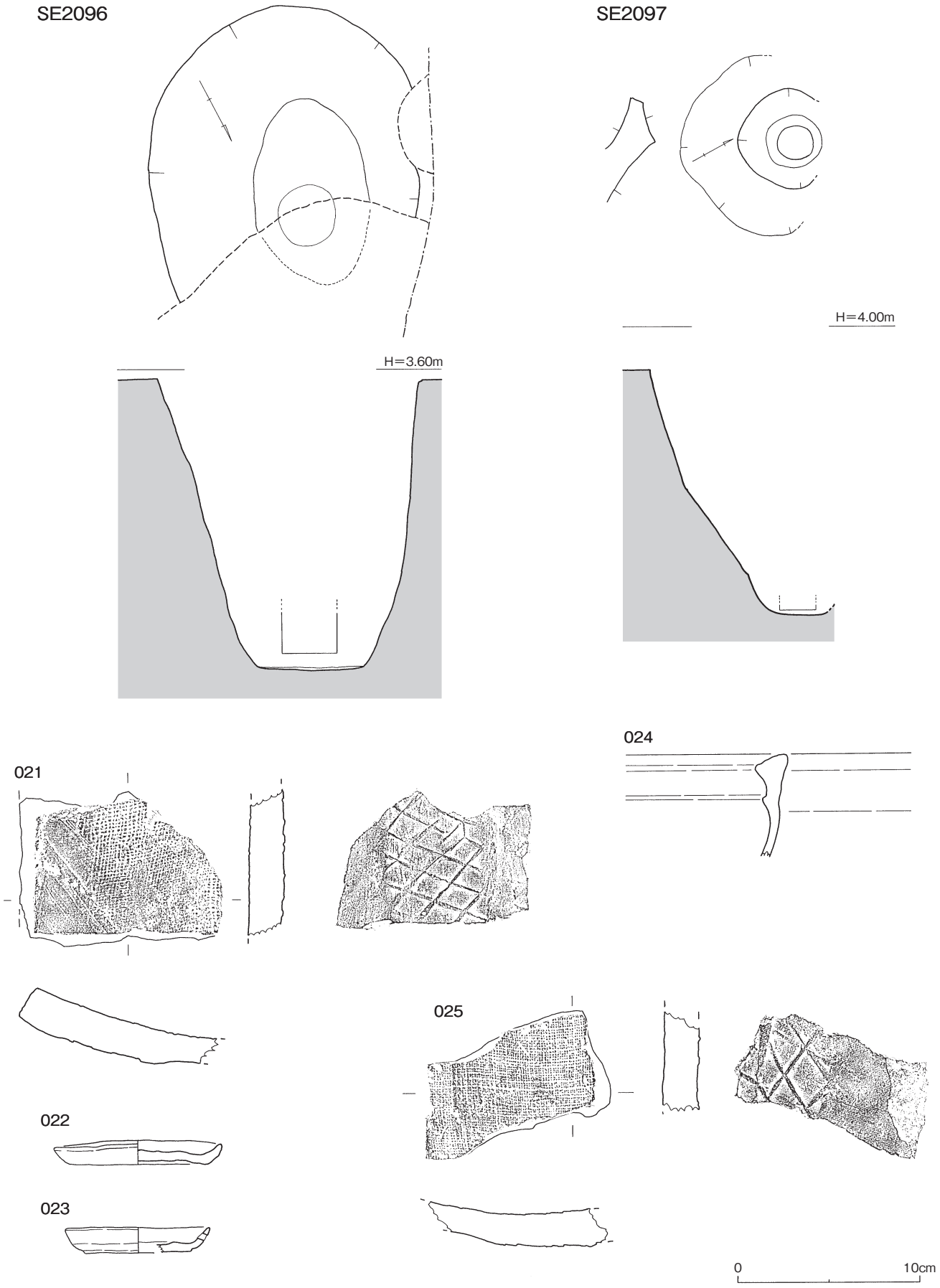
第 12 図　SE0336 実測図（1/60・1/3）

紀代の物が多かったが、瓦質捏鉢など 14 世紀代と思われる遺物が少量出土した。

SE2060・2056（第 15 図　図 7-1） 第 2 面で検出した。井筒が 2060、堀方が 2056 である。現状で東西 4.0 m、南北 3.7 mを測る。検出面から 2 m下に平坦面があり、中央に径 90 ㎝の縦孔を掘る。標高 1.2 mで湧水点に達し、隣家と接しているので安全のため掘り下げを中止した。井筒は木桶で径 87 ㎝を測る。井筒痕は検出面から確認でき、掘り下げ中に多くの大型陶器類が出土した。026 は白磁皿IX類で径 8.3 ㎝、器高 1.8 ㎝を測る。027 は土錘で長さ 3.8 ㎝、径 1.1 ㎝を測る。028～031 は龍泉窯系青磁碗で 029 は見込みに「金玉満堂」の、030 は草花文のスタンプを施す。032 は白磁碗で小片数点からの推定復元である。器壁は薄く内面に型押しで草花文を施す。033・034 は龍泉窯系の青磁坏、035 は白磁の坏で口径 12 ㎝を測る。釉は薄い灰色で外面下半は露胎である。036 は青磁束口碗で復元口径は 9 ㎝を測る。釉は明オリーブ色を呈し残存部分はすべて釉がかかる。037 は合子蓋、038・039 は合子である。040～045 は陶器盤で 046～049 は壺である。046 は白磁四耳壺で、釉は内外面全体にかかる。047 は白磁壺の底部である。048 は褐～黒褐色の釉で、口縁端に目跡がある。049 は陶器壺で釉は灰オリーブ色を呈す。全体にかなり歪である。050～055 は大型壺である。050～052 は四耳壺で 050 は復元口径 19.2 ㎝で灰オリーブから黒褐色の釉を施す。取手断面は円形を 051 は復元口径 14.6 ㎝を測り。褐色釉を施す。053 は最大胴径 40 ㎝を測る。肩部の稜線はシャープで釉は外面は黒色で光沢がある。肩と頸部の間に白色砂が付着しているのは目跡と思われる。外面は粘土帯の段がわずかに残る。内面は茶褐色の釉が薄くかかり肩部直情にはヘラの痕跡が残る。器壁は 5.2 ㎜と薄く胎土はやや粗めだが砂はわずかに含むのみである。055 は外面暗褐色～黒釉で内面は薄い茶



第 13 図　SE2055 実測図（1/60・1/3）



第 14 図　SE2096・2097 実測図（1/60・1/3）

褐釉を施す。外底部は露胎で茶褐釉により線を施す。胎土が053に似ており同一個体の可能性がある。054は壺底部で復元底径13㎝強を測る。胎土は灰～明褐色で白色砂を多く含む。外面は茶褐釉でギラギラとした光沢があり、内面は暗茶褐釉で底部には外面の茶褐釉が垂れている。058・059は大型の鉢で、058は光沢がない灰オリーブ色で、口縁下の窪みにヘラによる刻目と茶褐釉を施す。口縁上面は露胎で赤茶褐色を呈し内面は青海波紋のタタキ痕を施すが、口縁から11㎝下までは丁寧にナデ消している。059は暗緑色で釉・胎土ともに粗い。外面は横および斜め方向のタタキを施す。060・062は陶器盤である。063～068は常滑窯の陶器甕で13世紀後半である。063は外面肩部にスタンプを施す。064は外面肩部のハケ目の上から「S」字状のヘラ記号を施す。065から068はいずれも肩部にスタンプを施す。

SE2096（第14図） SE2055を掘り下げ中に標高3.5ｍ付近で検出した。堀方は径3m弱で北側を2055に切られる。井筒は痕跡のみだが木桶と思われ、径は62㎝を測る。底面の標高は0.3ｍを測る。龍泉窯系青磁碗Ⅱ類や白磁皿Ⅸ類が出土しており13世紀後半～14世紀前半と推定される。

SE2097（第14図） 同じくSE2055掘り下げ中に検出した。堀方北側を2096に切られる。井筒は曲物と思われ、径42㎝、底面標高は0.8ｍを測る。021～023は堀方、024・025は井筒から出土した。

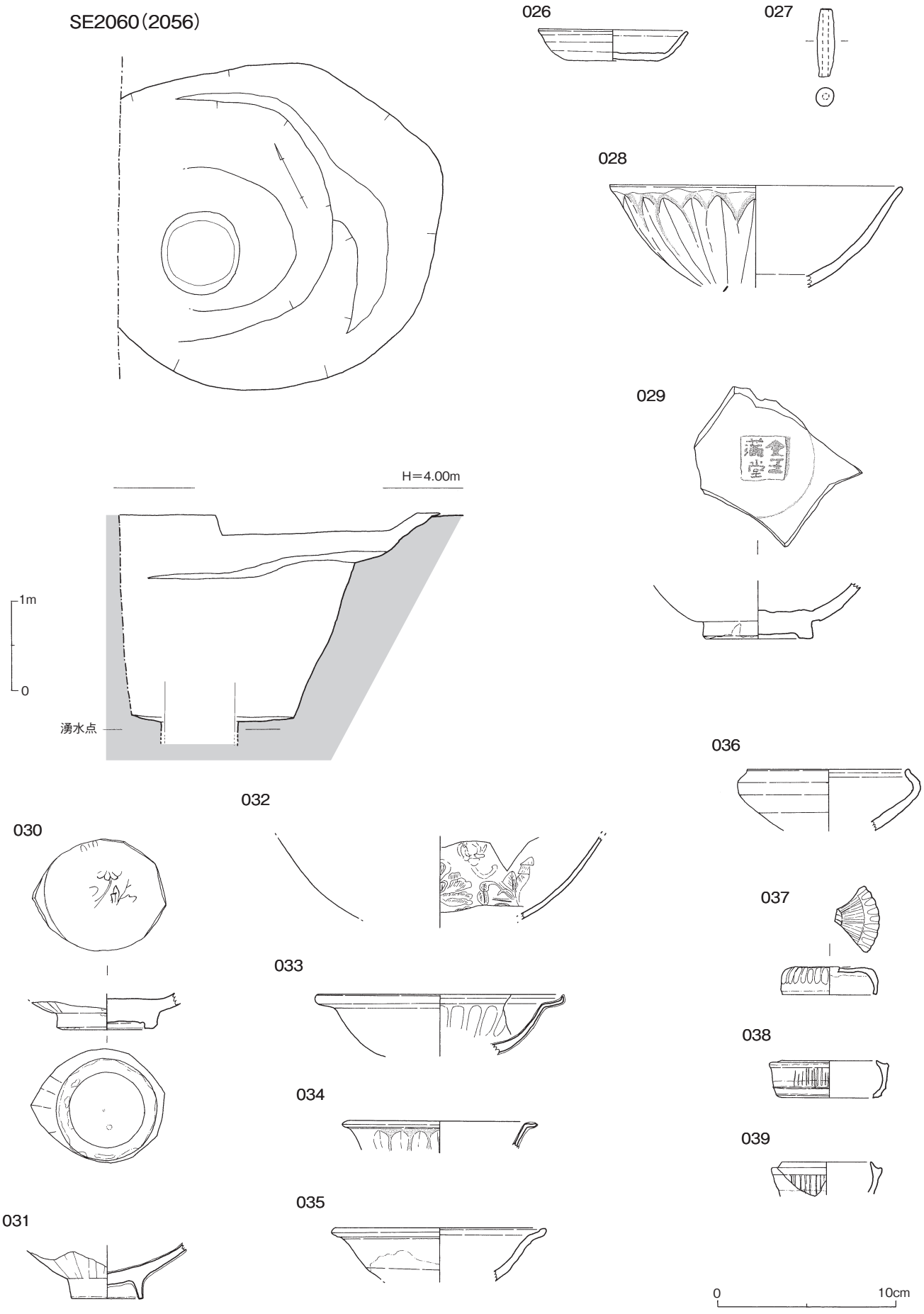
2）掘立柱建物

SB01（第19図） 焼土ブロック整地層下の第3面で検出し、3×3間の建物として復元した。東西5.3ｍ、南北3.5ｍを測る。0259・0308・0309の3基は柱痕に焼土ブロックが詰まっていたことから焼土ブロック整地層の基になった火災時に焼け落ちた建物の可能性がある。残りの柱穴は切り合いなどから柱痕跡は残っていなかった。時代の判る遺物は出土しなかったが、焼土ブロック整地層の下層であることから13世紀後半頃と推定される。

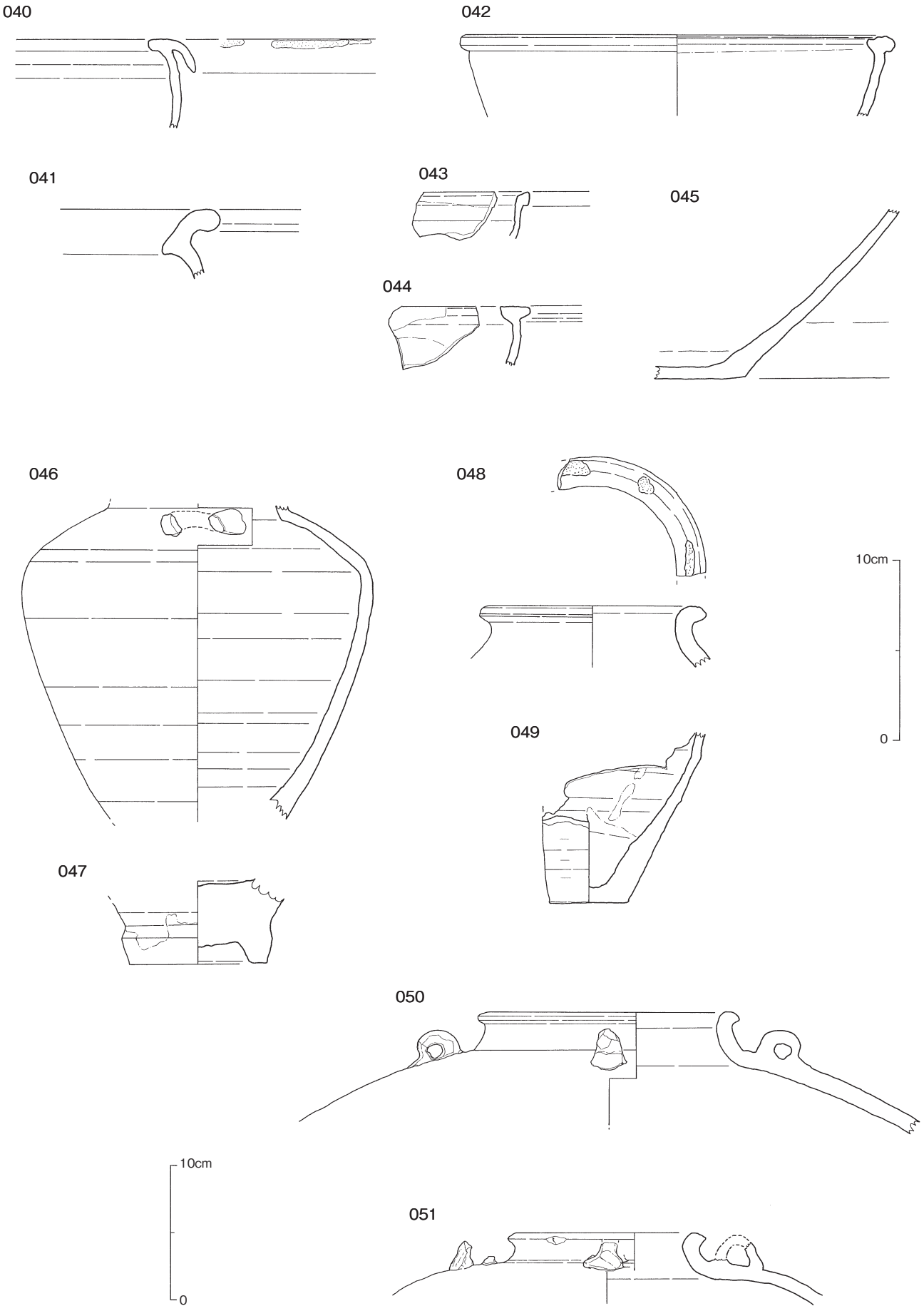
3）土坑

SK0122（第20図　図版7-2~4） 第2面で検出して掘り下げ、その後第3面で掘り残しを確認した。堀方は径1.2×1.1㎝の隅丸方形で、深さ108㎝を測る。埋土は全体に薄いレンズ状の堆積で、埋土中からは礫が多数出土した。底面には中央に径50～65㎝の掘り込み2基が並び、それを径20～30㎝の小ピット12基が囲む。埋土から青白磁小碗片などが出土した。069～072は上層、073～075は下層で出土した。069～074は土師坏・皿で糸切りである。075は鉄滓で長径13.1㎝を測る。

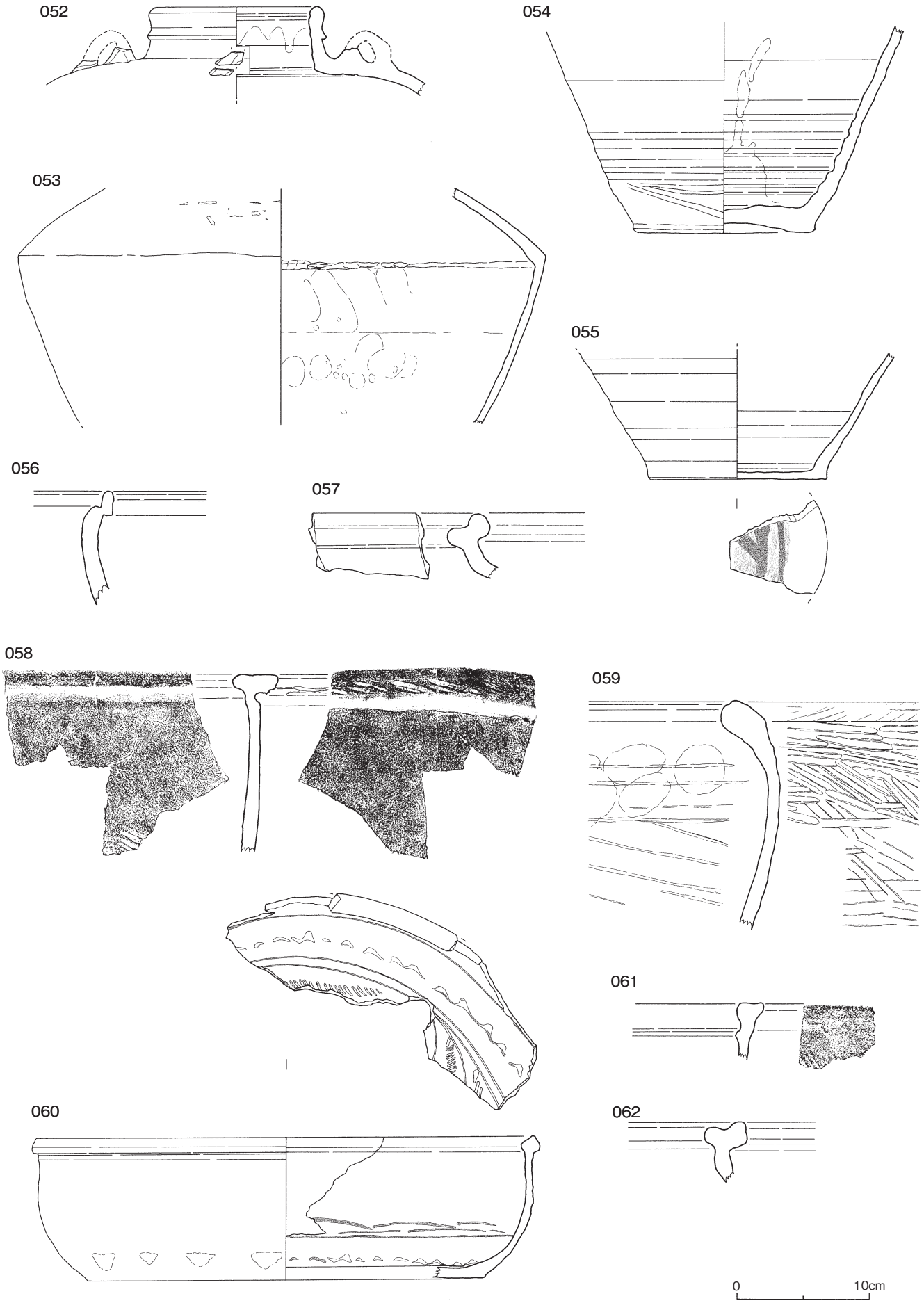
SK1074（第22・23図　図版7-5~8） 第2面南東部に位置する。南北両側を攪乱に切られ、現状で南北203㎝、東西最大幅110㎝を測る。南側攪乱に切られた断面で焼土ブロック層の存在が判ったため最初焼土層上面まで掘り下げた。焼土ブロック層は北側が削平を受けており、遺構北端まで延びるかは不明である。焼土ブロック層に張り付くように大型陶器の破片が出土した（図版7-6）。出土遺物は076～079は焼土ブロック層まで掘り下げる途中で出土した土師皿である。090~094は焼土ブロックに張り付いて出土した遺物で090は青磁輪花碗、094は常滑大甕片である。その他龍泉窯系青磁坏Ⅲ-4類等も出土している。焼土ブロック整地層の下層（第23図）は、北側は検出面からの深さ約25㎝と浅い。南側の長方形掘り込みは南北172㎝、東西108㎝、深さ44㎝を測る。080~089は焼土ブロック層から遺構底面の間で出土した。080は鉄刀で長さ28.9㎝を測る。081は青磁碗片、082は黄褐陶器鉢、083は完形の白磁皿Ⅸ類、084は白磁合子、085は陶器盤で、鉄刀や完形の白磁皿の出土や、遺構の形状から土壙墓の可能性も考えられる。もし墓であれば焼土ブロック層が棺床であろうか。13世紀末～14世紀前半と推定される。



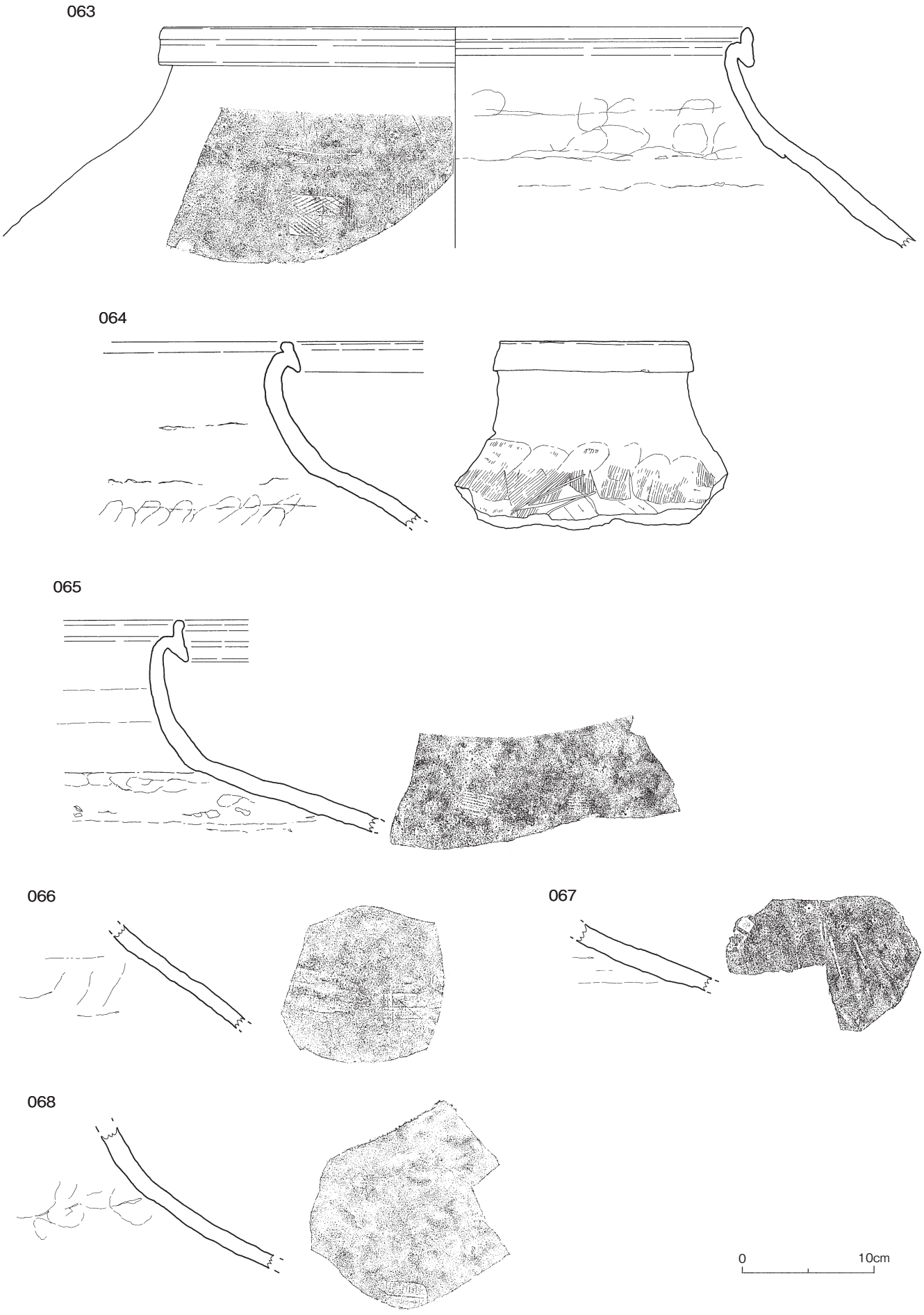
第 15 図　SE2060 実測図 1（1/60・1/3）



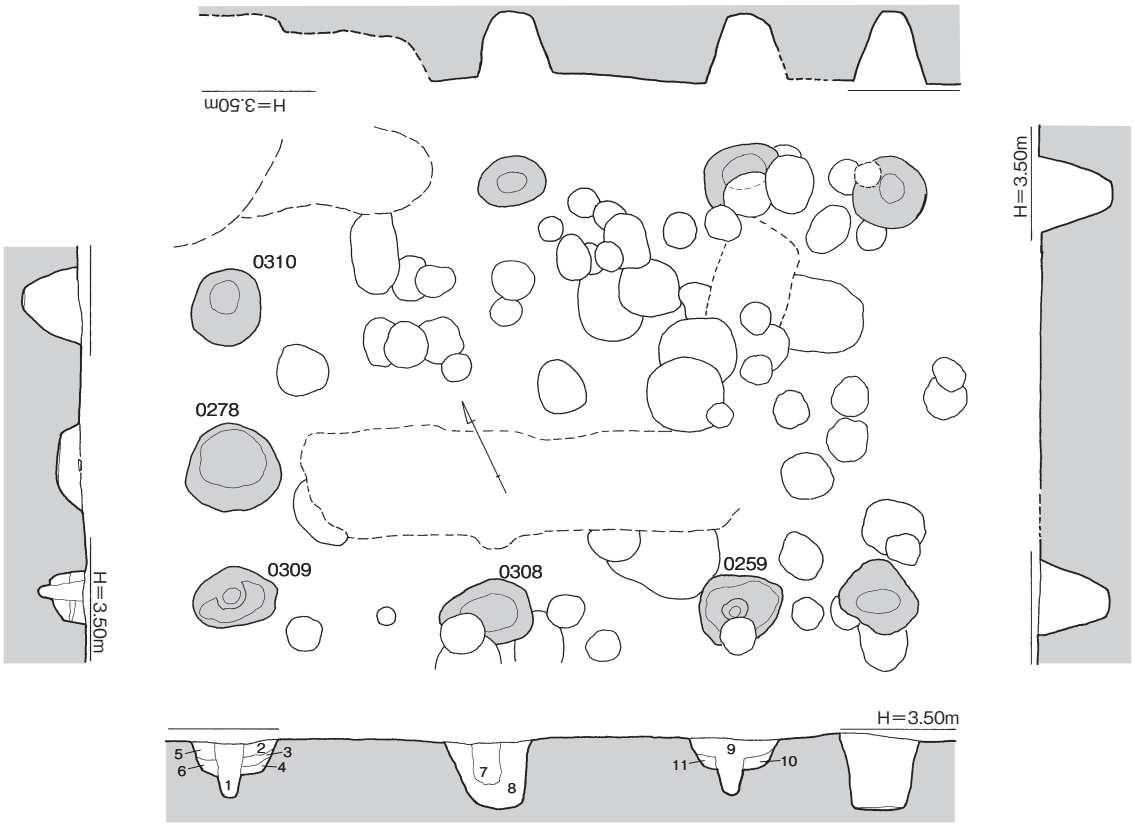
第 16 図　SE2060 実測図 2（1/3、050・051 は 1/4）



第 17 図　SE2060 実測図 3（1/4）



第 18 図　SE2060 実測図 4（1/4）



1. 暗褐色砂　焼土ブロック多量に含む
2. 暗褐色砂　焼土ブロックをわずかに含む
3. 暗褐色砂　焼土ブロックをわずかに含む
4. 暗褐色砂　黄色砂を少量含む
5. 暗褐色砂　焼土を微少に含む
6. 黄色砂　暗褐色砂を多く含む
7. 暗褐色砂　焼土ブロックを多く含む
8. 暗褐色砂　細かな焼土を少量含む
9. 暗褐色砂　焼土ブロックを多量に含む
10. 黄褐色砂
11. 暗褐色砂

第 19 図　SB01 実測図（1/60）

SK0175（第 25 図　図版 8-5） 第 2 面Ⅰ区中央に位置する。現状で南北 41 ㎝、東西 70 ㎝、深さ 6 ㎝を測る。南半部で土師坏・皿の他に陶器大甕片などがまとまって出土した。095・096 は土師皿で 095 は口径 8.4 ㎝、器高 1.35 ㎝、096 は復元口径 5.0 ㎝、器高 1.1 ㎝を測る。096 は外底部に煤が付着する。

SK2139（第 25 図　図版 8-8） 第 4 面Ⅱ区南側に位置する。形状は不整形で現状で南北 1.7 ｍ、東西 1 ｍを測る。底面から少し浮いて土師坏・皿が出土した。

SK2054（第 26 図） 第 3 面中央に位置する。現状で南北 116 ㎝、東西 109 ㎝、深さ 39 ㎝を測る。西側に三日月状の平坦面があり、その周辺で土師坏・皿などが出土した。097 は龍泉窯系青磁坏で復元口径 13.8 ㎝を測る。098 は陶器壺底部で釉はオリーブ色を呈す。

SK0066（第 26 図　図版 8-1） 第 1 面Ⅰ区で検出した。径約 50 ㎝、深さ 12 ㎝を測り、底面から 12 ㎝上で完形の土師皿 1 枚が出土した。

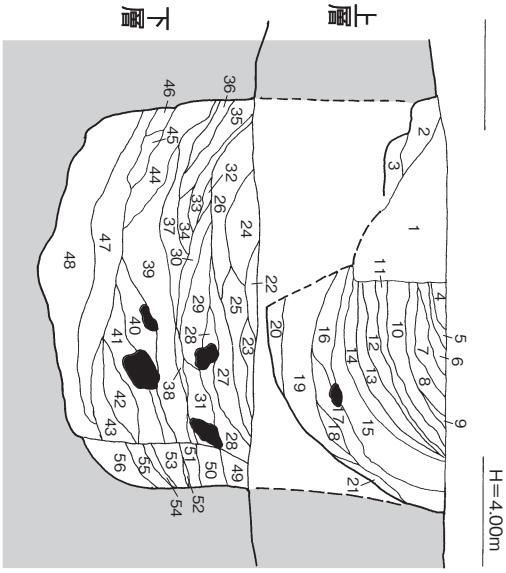
SK0072（第 26 図　図版 8-2） 第 1 面Ⅰ区で検出した。径 33 ㎝、深さ 7 ㎝を測る。中央の窪みから茶褐釉の陶器小壺が出土した。

SK0096（第 26 図　図版 8-3） 第 1 面Ⅰ区で検出した。径 50 ㎝程の円形を呈し、深さ 14 ㎝を測る。099 は完形の白磁皿Ⅸ類で、その他に土師坏小片などが出土した。13 世紀後半か。

SK0156（第 26 図　図版 8-4） 第 2 面Ⅰ区で検出した。0174 を切る。東西 69 ㎝、深さ 18 ㎝を測る。埋土中から土師坏・皿、銅銭が出土した。

SK2027（第 26 図　図版 8-6） 第 2 面南西側で検出した。南側を攪乱に切られる。径 32 ㎝、深さ

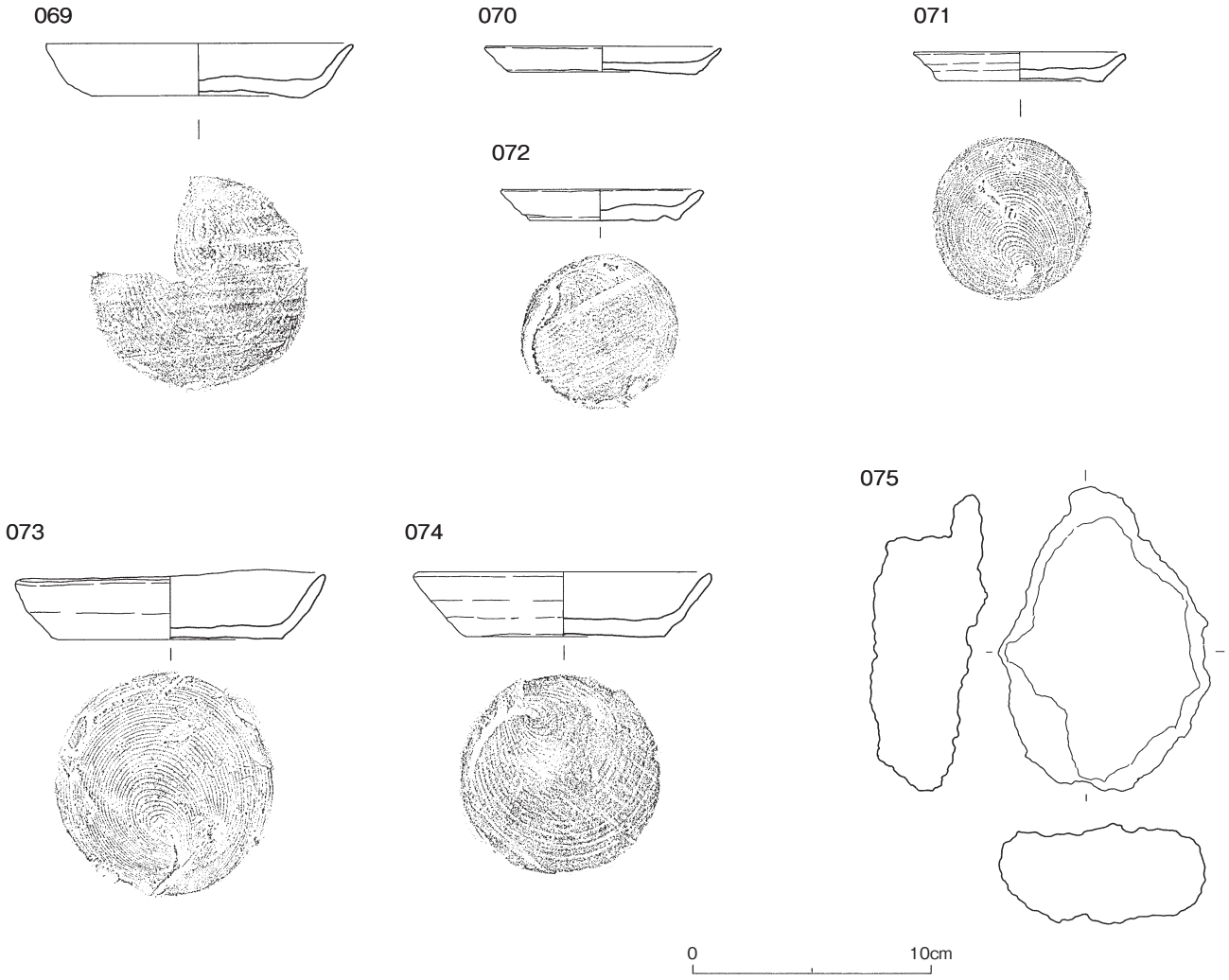
SK0122



1. 暗褐色砂質土　径 1 ㎜程の焼土・炭化物を含む
2. 暗褐色砂質土　白色シルトをわずかに含む
3. 暗褐色砂質土　径 5 ㎜程の炭化物を少量含む
4. 暗褐色砂質土　径 2 ～ 5 ㎜の炭化物をわずかに含む
5. 暗褐色砂質土
6. 黄褐色砂質土　炭化物を少量含む
7. 暗褐色砂質土
8. 灰白色シルト
9. 黒褐色砂質土
10. 黄褐色砂質土
11. 暗～黒褐色シルト
12. 黄～褐色砂質土
13. 暗～黒褐色シルト　炭化物わずかに含む
14. 暗褐色砂質土　径 5 ㎜程の炭・焼土を含む
15. 暗褐色砂質土　灰白色シルトを少量含む
16. 暗褐色砂質土
17. 暗褐色砂質土　5 ～ 10 ㎜の炭を少量含む
18. 暗褐色砂質土　灰白色シルトをわずかに含む
19. 暗褐色砂質土
20. 暗褐色砂質土　2 ～ 3 ㎜の炭・焼土を少量含む
21. 暗灰褐色土　焼土ブロック多く含む
22. 褐色土　炭化物小片多く含む
23. 明褐色砂質土
24. 灰褐色砂質土　白色シルトブロック含む
25. 灰褐色砂質土　炭化物小片わずかに含む
26. 炭化物層
27. 黄褐色砂　白色シルト多く含む　31 層との境に薄い炭化物層
28. 白色シルトブロック層
29. 褐色土　白色シルトブロック含む
30. 灰色土
31. 黄色砂　炭化物小片多く含む
32. 灰色砂質土
33. 黄色砂質土
34. 白色シルト　黄色砂多く含む
35. 灰色土　黄色砂
36. 暗黄褐色砂
37. 黄色土　黄色砂多く含む
38. 灰色土
39. 暗灰褐色砂質土　黄色粘土ブロック含む
40. 暗灰褐色土
41. 暗黄色砂
42. 灰色土　炭化物片含む
43. 灰色土　白色シルトブロック含む
44. 黄色砂
45. 暗灰色砂　炭化物小片含む
46. 灰色土　灰色土を水平方向のスジ状に含む
47. 黄色砂
48. 暗褐色土　炭化物小片多く含む
49. 暗灰褐色土
50. 焼土
51. 暗灰褐色土
52. 暗灰褐色土
53. 黄色砂
54. 灰褐色土　黄色砂多く含む
55. 灰褐色土　炭化物小片多く含む
56. 灰褐色土

50cm
0

第 20 図　SK0122 実測図



第 21 図　SK0122 出土遺物（1/3）

13 ㎝を測る。東端底面で完形白磁皿が出土した他、陶器盤片、土師皿片なども出土した。

SK2033（第 26 図　図版 8-7） 第 2 面南西隅で検出した。径 45 × 41 ㎝、深さ 15 ㎝を測る。102・103 が並んで出土した。102 は径 12.2 ㎝、器高 2.9 ㎝。103 口径 7.9 ㎝、器高 1.6 ㎝を測る。

SK0271（第 26 図） 第 4 面Ⅰ区南側で検出した。東西に長い楕円形で長径 53 ㎝、深さ 29 ㎝を測る。埋土中から長さ　㎝の刀子が 1 点出土した。

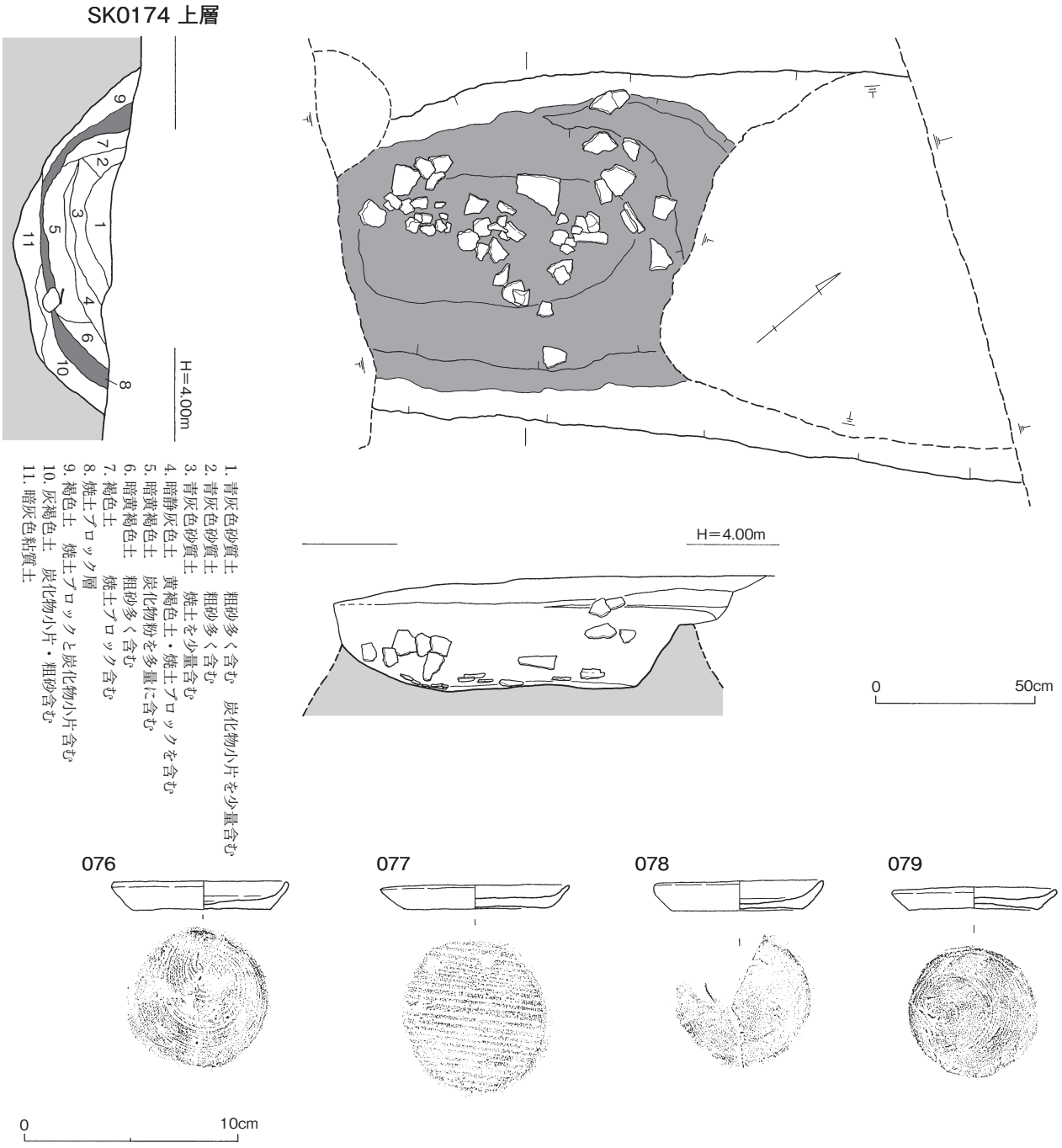
SK0278（第 26 図　図版 9-1） 第 4 面Ⅰ区西端で検出した。径 72 ㎝、深さ 18 ㎝を測る。完形の土師皿が 1 枚が出土した。

SK0295（第 26 図　図版 9-2） 第 4 面Ⅰ区中央で検出した。径 43 ㎝、深さ 12 ㎝を測る。100 は完形の土師皿で径 9.1 ㎝、高さ 1.5 ㎝を測る。内外面に煤が付着する。灯明皿か。

SK2173（第 27 図　図版 9-3） 第 4 面Ⅱ区南東端で検出した。南側を SD2001 に切られる。土師坏片が出土した。

SK2199（第 27 図　図版 9-4） 第 4 面Ⅱ区南西端で検出した。南側を SD2001 に切られる。埋土中から龍泉窯系青磁碗Ⅰ類、白磁蓋、土師坏数点（糸切り）、土師皿など多くの遺物が出土した。

SK2034（第 28 図） 第 1 面Ⅱ区西端に位置する。径 98 × 90 ㎝の方形で 20~40 ㎝の礫を含む。104 は陶器盤である。その他に龍泉窯系青磁碗Ⅲ類や陶器壺・甕などの遺物が出土した。13 世紀中～14 世紀と考えられる。



第 22 図　SK0174 上層実測図（1/20・1/3）

SK2154（第 28 図）　第 4 面Ⅱ区東端に位置する。Ⅰ区との境に位置するがⅠ区では検出できなかった。径 123 ㎝、深さ 102 ㎝を測り、埋土は水平方向のスジが多く入る。同安窯系青磁碗や石鍋片など 12 世紀を主とするが、105 のような古代須恵器瓦片も出土している。

SK2205（第 28 図）　第 6 面Ⅱ区に位置し長径 105 ㎝、深さ 19 ㎝を測る。

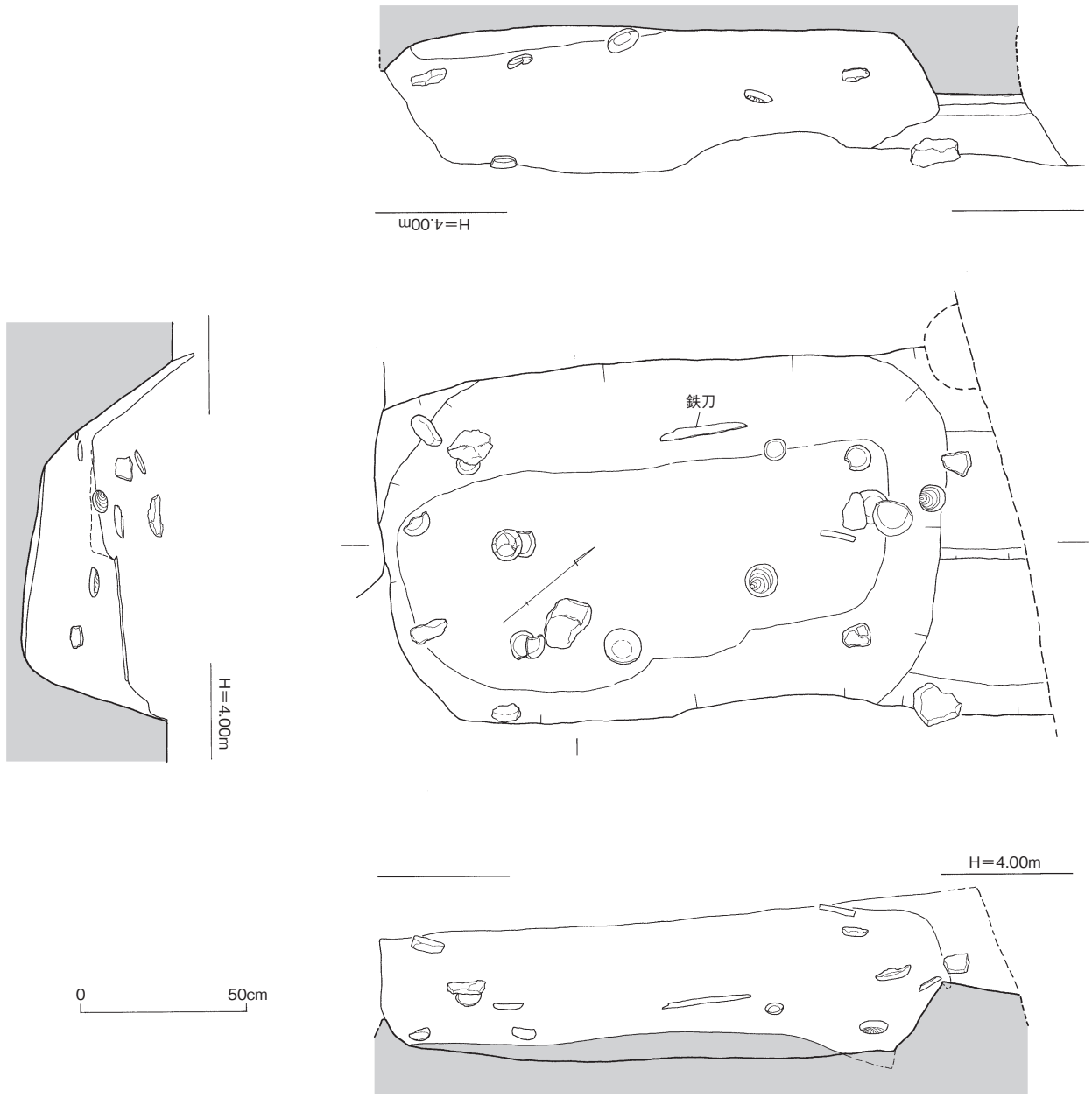
SK2206（第 28 図）　第 6 面Ⅱ区に位置し長径約 1 m、深さ 15 ㎝を測る。

SK2197（第 28 図）　第 5 面Ⅱ区に位置し径 93 ㎝、深さ 72 ㎝を測る。

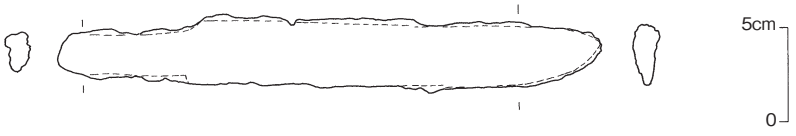
SK0100（第 29 図）　第 1 面Ⅰ区に位置し長径約 3m、深さ 42 ㎝を測る。底面はほぼ平らである。龍泉窯系青磁碗Ⅲ類や須恵器甕の他陶器類は壺、盤、甕など種類が多い。14 世紀と考えられる。

SK0163（第 29 図）　第 2 面Ⅰ区に位置する。長径 2.5 m、深さ 28 ㎝を測る。冷麺は西側がやや低い。

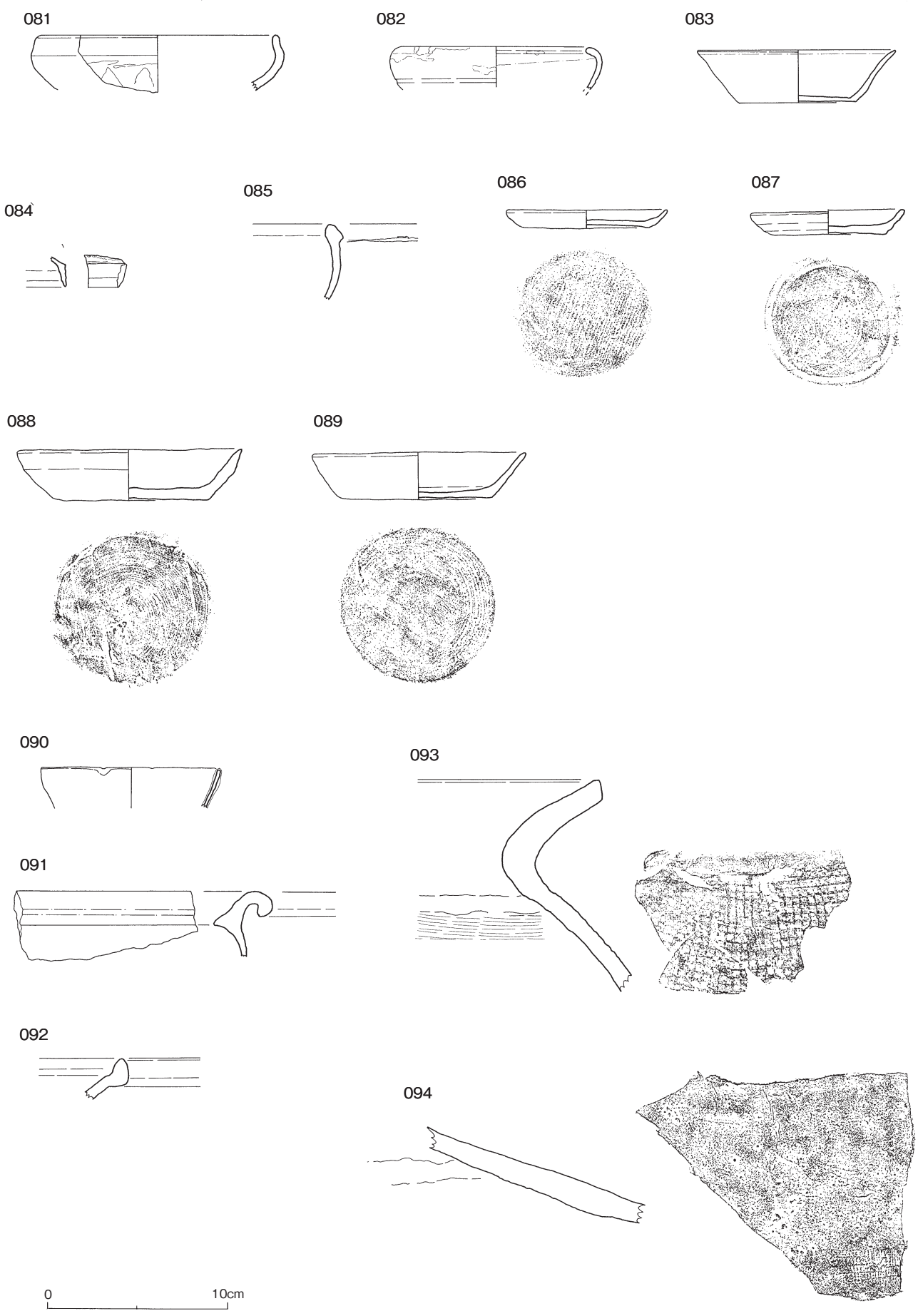
SK0174 下層



080



第 23 図　SK0174 下層実測図（1/20・1/4）



第 24 図　SK0174 出土遺物（1/3）

101 は土師質捏鉢で推定口径は 30 ㎝弱である。14 世紀代か。その他に龍泉窯系青磁碗Ⅰ類や白磁碗、土師坏・皿など 12 ～ 13 世紀の遺物が多く出土した。

SK2163（第 29 図） 第 4 面Ⅱ区に位置する。南側を 2001 に切られ深さ 65 ㎝を測る。

SK0379（第 29 図） 第 5 面Ⅰ区に位置する。長径 143 ㎝、深さ 35 ㎝を測る。白磁碗Ⅳ類の他土師坏・皿の小片が多く出土した。糸切りが多くヘラ切りが混じる。11 世紀後半か。

SK0350（第 30 図） 第 4 面Ⅰ区南端に位置し南側は調査区外に延びる。東西 2.7 ｍ、深さ 63 ㎝を測る。柱穴などはない。106 は白磁皿で口径 9.7 ㎝を測る。その他に白磁碗、陶器大甕、瓦器椀、土師坏・皿が出土し 12 世紀後半と推定される。

SK0380（第 30 図） 第 5 面Ⅰ区に位置し長径 89 ㎝、深さ 37 ㎝を測る。白磁碗Ⅴ類や須恵器大甕、土師坏・皿（糸切り）などが出土した。12 世紀前半か。

SK0390（第 30 図） 第 5 面Ⅰ区に位置し長径 1.5 ｍ、深さ 53 ㎝を測る。須恵質坏（糸切り）、瓦質捏鉢、土鍋などが出土した 11 世紀後半～ 12 世紀前半と推定される。

SK0391・0392（第 30 図） 第 5 面Ⅰ区に位置する。西端が深くなっており深さ 80 ㎝を測る。須恵質大甕、黒色土器Ａ類、土師椀、須恵質平瓦などが出土した。11 世紀後半と推定される。

SK0162（第 31 図） 第 2 面Ⅰ区北西端に位置する。径 1.1 ｍ程の土坑下半に径 10 ㎝前後の礫が隙間無く詰まる。陶器小盤Ⅱ類、須恵質捏鉢、土鍋、炉壁などが出土し 13 世紀以降と推定される。

SK2035（第 31 図） 第 2 面Ⅱ区に位置する。径 80 ㎝程の土坑中央で 7~25 ㎝の礫が出土。礎石の基礎か。107 の石臼片の他に龍泉窯系青磁坏Ⅲ類、陶器大甕、瓦質捏鉢が出土。13~14 世紀と推定される。

SK2057（第 31 図） 第 2 面Ⅱ区北東隅に位置する。堀方は不明。下半は径 5~20 ㎝の礫が詰まっており、その上に径 30 ㎝強の方形の礎石が乗る。13 世紀と推定される。

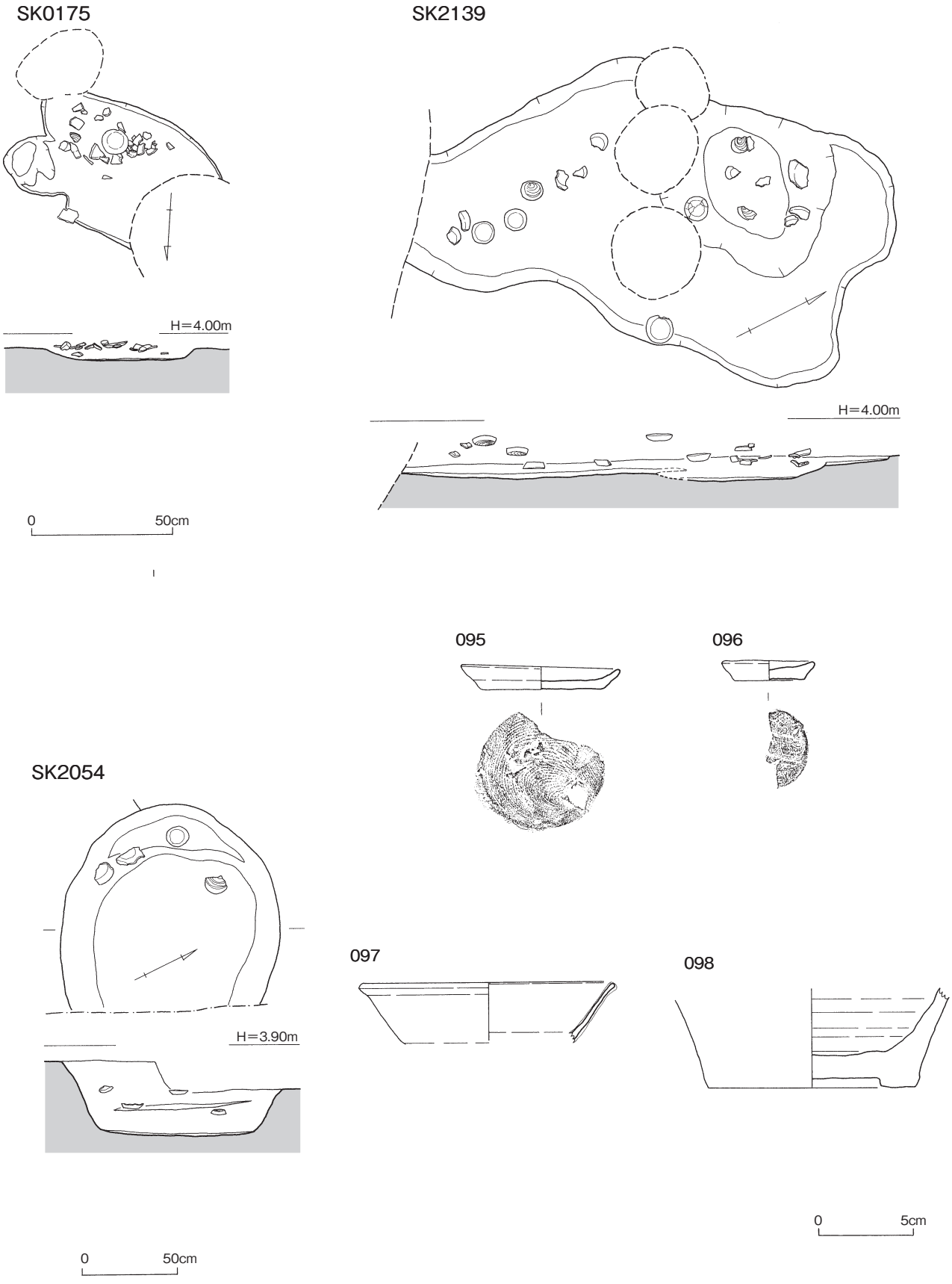
SK2058（第 31 図） 第 2 面Ⅱ区北西隅に位置する。 長径 1.5m 以上、 深さ 65 ㎝の土坑底面に径 15~25 ㎝の礫を 2 段積み重ねた石室の残骸である。13C 後半～ 14 世紀で龍泉窯系青磁坏などが出土した。

4）溝

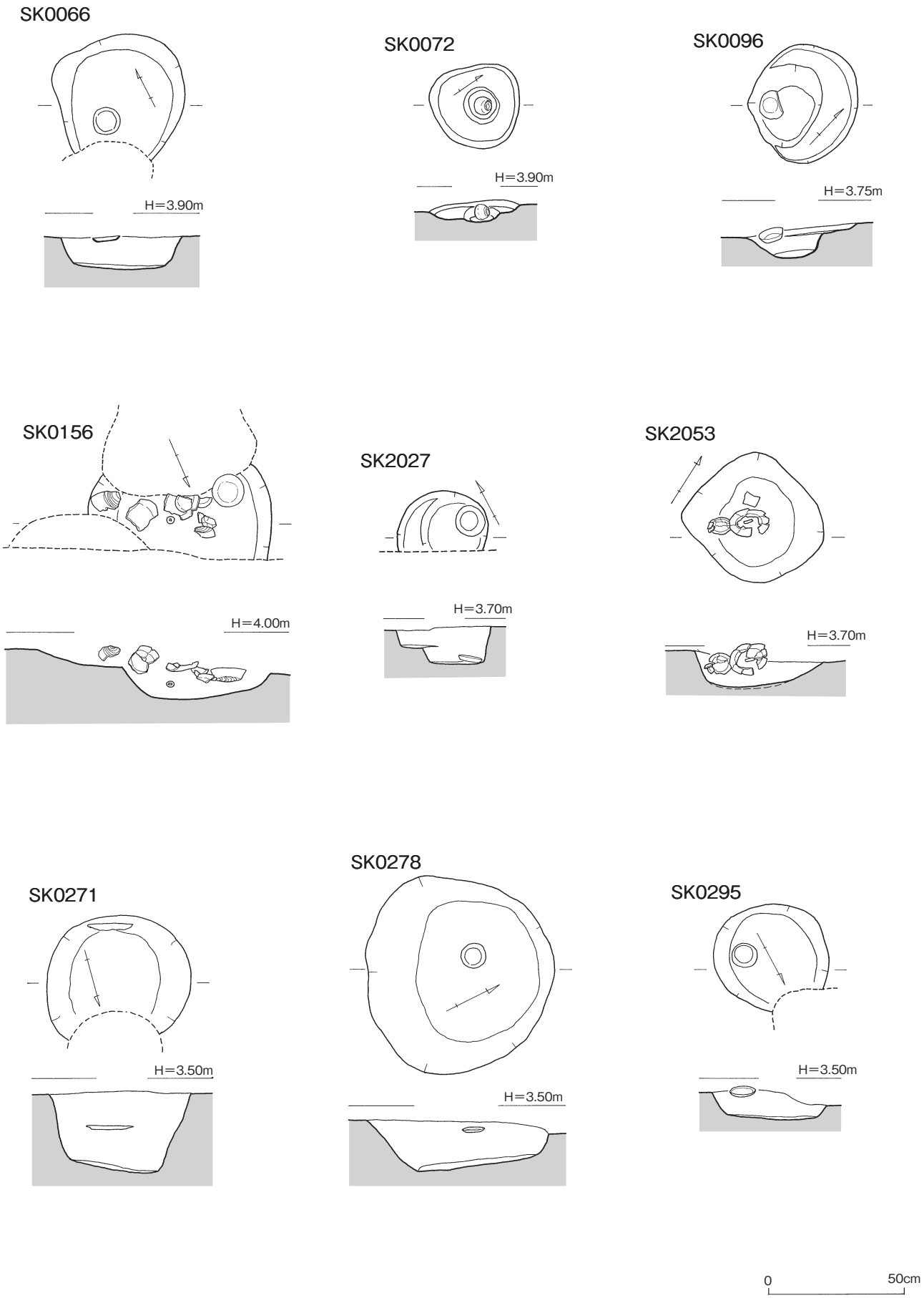
SD2001（第 32 図　図版 10-4） 調査区南端に位置し、 南側の立ち上がりは調査区外で不明だが、溝の可能性が高いと思われる。12 世紀頃から近世まで何度も掘り返されているが、理由は不明である。流水、滞水の痕跡は見られない。108~113 は上層で出土した。108 は砂石製の容器底部で復元底径は 15.4 ㎝を測る。外面には工具の粗い削り痕が残る。内側はすべて破面で容器であったかは不明である。109~112 は素焼きの土製品で 119 は人形の胴部、110 は不明、111 は外輪式蒸気船、112 は土倉、113 は土錘で長さ 4.1 ㎝、最大径 1.5 ㎝を測る。

2001 下層Ａ（第 33 図） 西端から 2.2 ｍ東側の底面部分で土器がまとまって出土した。114~117 は土師皿で径と器高は 114 が 9.8 ㎝・1.1 ㎝、115 が 9.6 ㎝・1.2 ㎝、116 が 9.8 ㎝・1.0 ㎝、117 が 8.4 ㎝・1.1 ㎝を測る。いずれも回転糸切りで 116 以外は板状圧痕を施す。他に陶器小碗、瓦質平瓦などが出土しており 12 世紀頃と推定される。

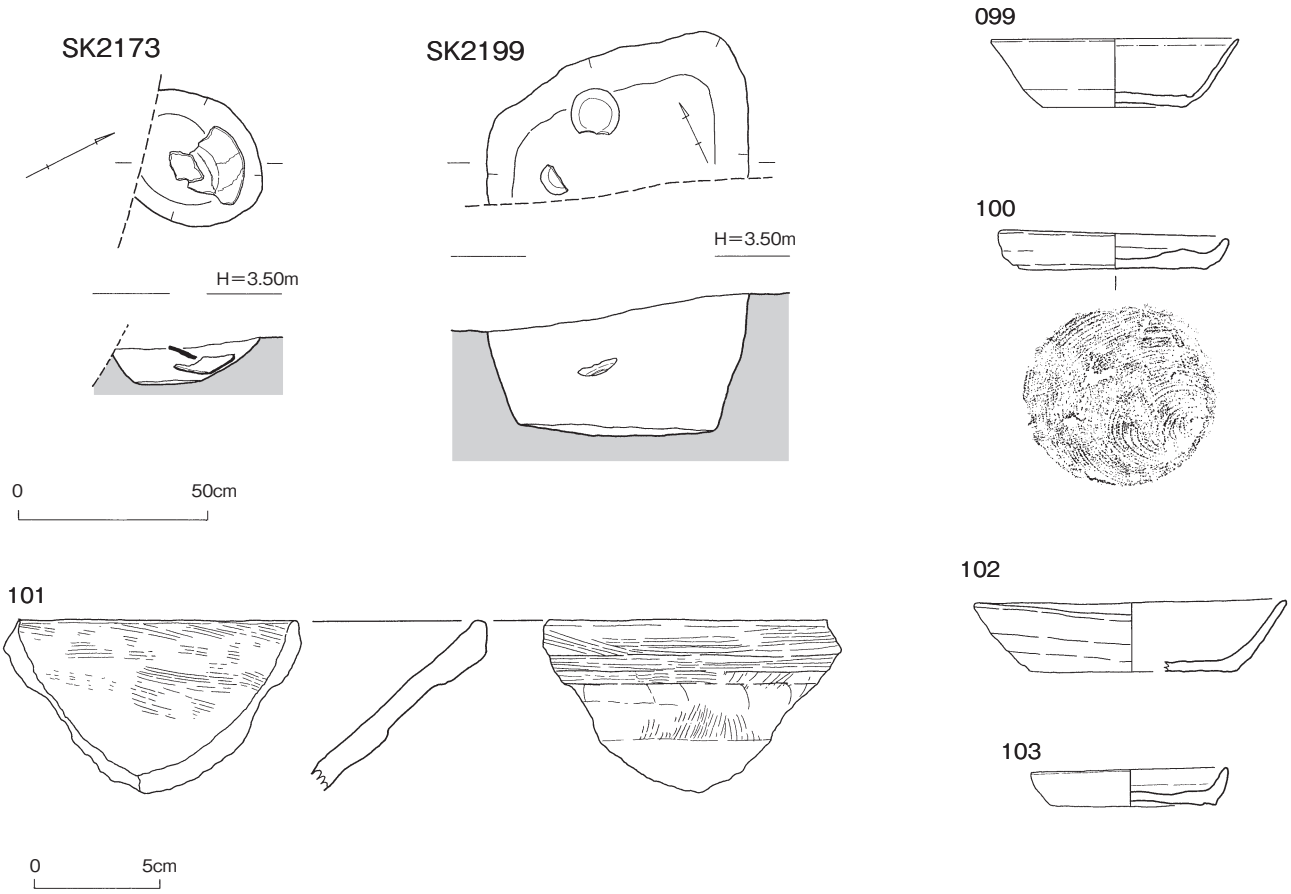
2001 下層Ｂ（図版 10-5） 下層Ａから 1.5 ｍ東で土師坏・皿がまとまって出土した。118 は同安窯系青磁碗、119・120 は土師坏で 119 は復元口径 16 ㎝、器高 3，3 ㎝、回転糸切りで板状圧痕を施す。120 は口径 16 ㎝、器高 3.1 ㎝、外底部はヘラ切りでナデを施す。121~124 は土師皿でその他龍泉窯系青磁碗Ⅰ類、白磁皿Ⅸ類、天目碗小片、多種の陶器類、須恵器大甕、瓦質土器、炉壁などが出土した。13 ～ 14 世紀頃と推定される。



第 25 図　土坑 1（1/20・SK2054 は 1/30・1/3）


SK0066
H=3.90m
SK0072
H=3.90m
SK0096
H=3.75m
SK0156
H=4.00m
SK2027
H=3.70m
SK2053
H=3.70m
SK0271
H=3.50m
SK0278
H=3.50m
SK0295
H=3.50m
0
50cm

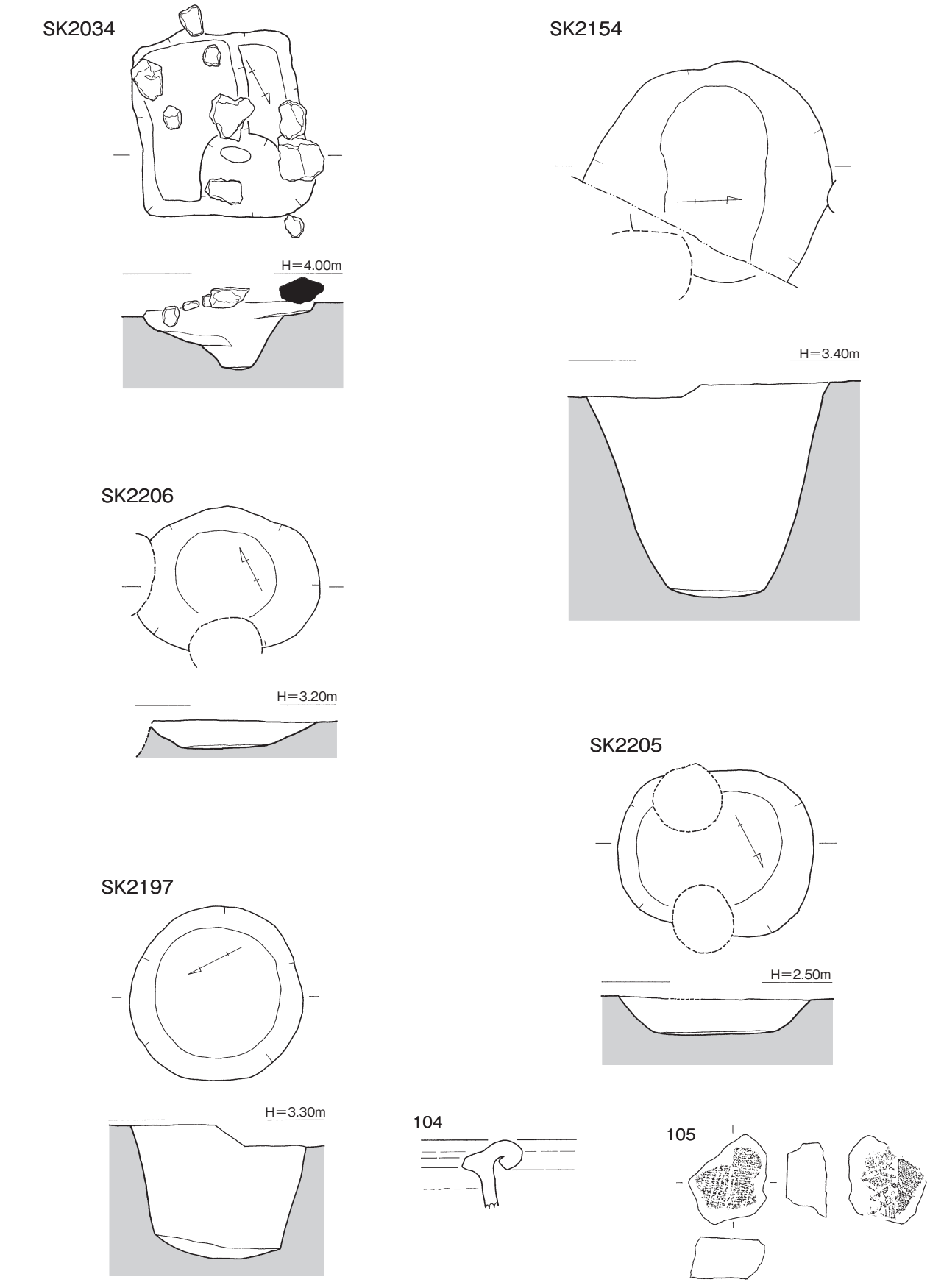
第 26 図　土坑 2（1/20）



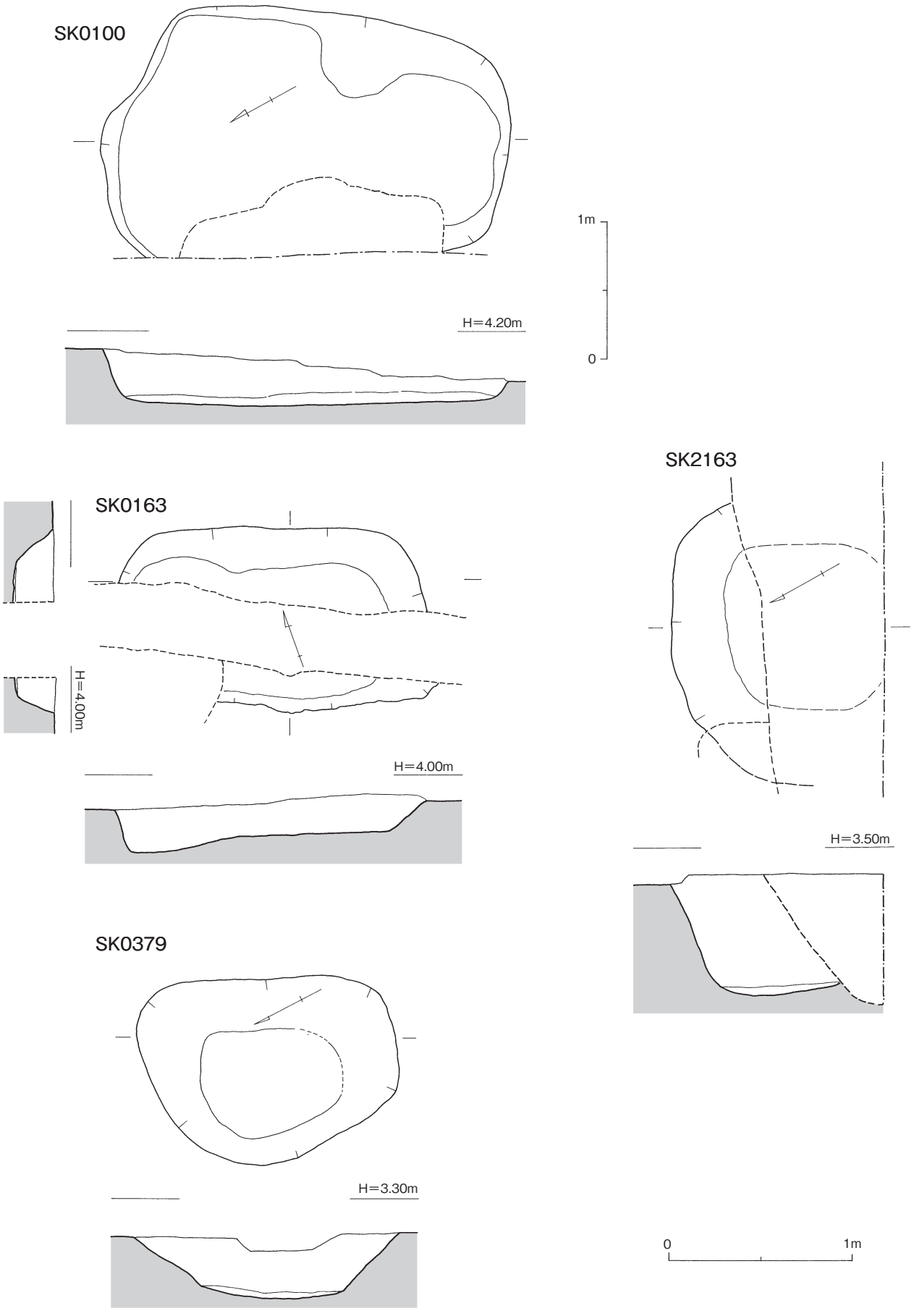
第 27 図　土坑 3（1/20・1/3）

小結

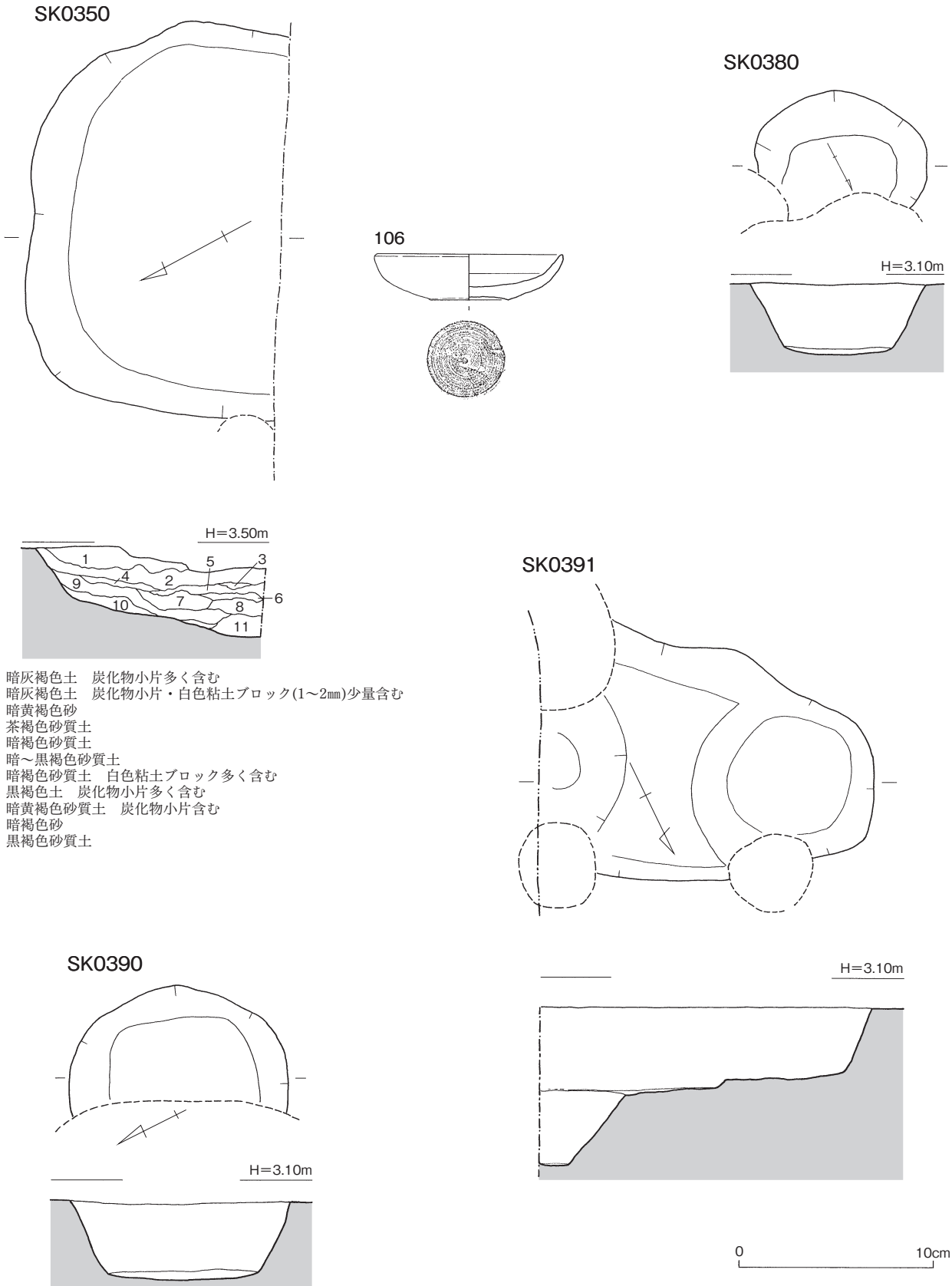
今回の調査では焼土ブロックによる整地層を 2 面とその上下で厚さ 1～10 ㎝の整地層と思われる数層の堆積層を確認した（図版 11・12）。上層の焼土ブロック整地層は削平のため部分的にしか遺存しておらず広まりを追うことはできなかったが、調査区西壁土層では近世盛土層の下に位置しており、中世末頃と考えられる。下層の焼土ブロック整地層は南東側で良く遺存しており、厚さ 10 ㎝強を測る。砂丘が南側に傾斜しているため北側では薄く、西側は井戸の切り合いでほとんど遺存していない。焼土ブロックの由来は①火災と②製鉄等による産業廃棄物の可能性が考えられる。まず②については鉄滓が複数遺構や整地層から出土しているが、その量は微少であることや焼土ブロックを炉壁片と考えると滓が付着したものがないため可能性は低い。ただ SK1074 で焼土ブロックを人為的に敷くなど焼土塊にたいする扱いを考えると他の火や炉を使用する生産行為由来のものである可能性もある。①の可能性は焼土ブロック層を除去すると白色粘質土を主とする整地層の上面が顔を出す（Ⅰ区 3 面　図版 11 － 2）。そこで検出した SB01（第 19 図）の柱穴やその他いくつかの柱穴では柱痕跡の中に焼土ブロックが入り込んだものがいくつか見られた（図版 10 － 1）。これは火災後燃え残った柱を抜いた後に焼土ブロックが流入したものと思われるため、火災の可能性は高いと考えている。下層焼土ブロック層の時期は層の上下で出土した遺物から 13 世紀後半頃と考えられる。



第 28 図　土坑 4（1/30・1/3）



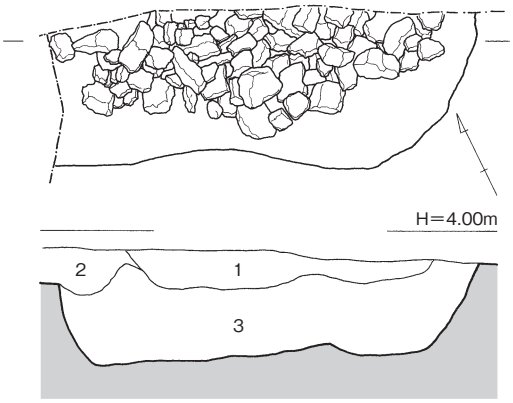
第 29 図　土坑 5（1/30・SK0100 は 1/40）



1．暗灰褐色土　炭化物小片多く含む
2．暗灰褐色土　炭化物小片・白色粘土ブロック(1～2㎜)少量含む
3．暗黄褐色砂
4．茶褐色砂質土
5．暗褐色砂質土
6．暗～黒褐色砂質土
7．暗褐色砂質土　白色粘土ブロック多く含む
8．黒褐色土　炭化物小片多く含む
9．暗黄褐色砂質土　炭化物小片含む
10．暗褐色砂
11．黒褐色砂質土

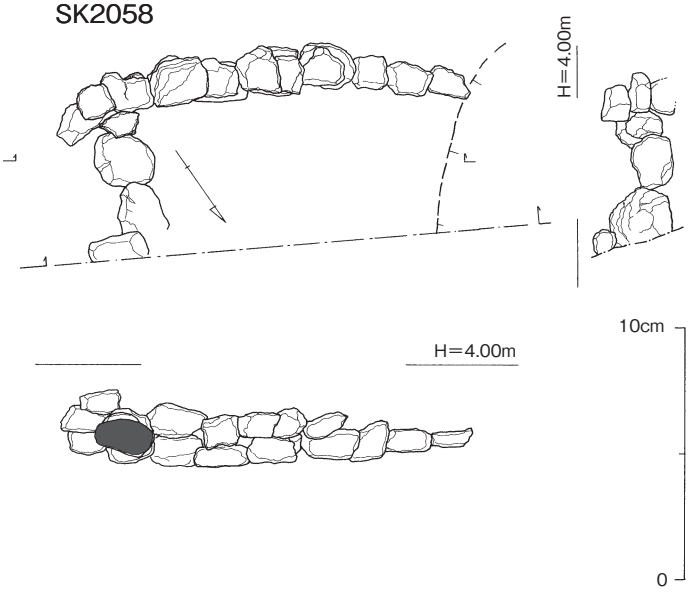
第 30 図　土坑 6（1/30・SK0390 は 1/40・1/3）

SK0162

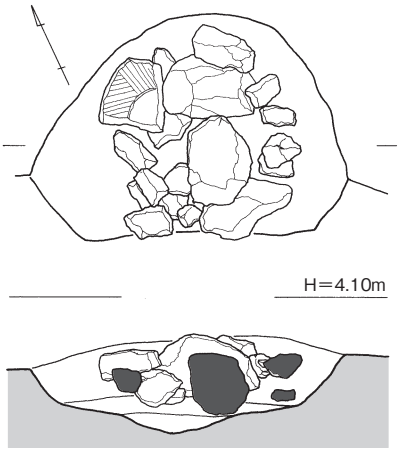


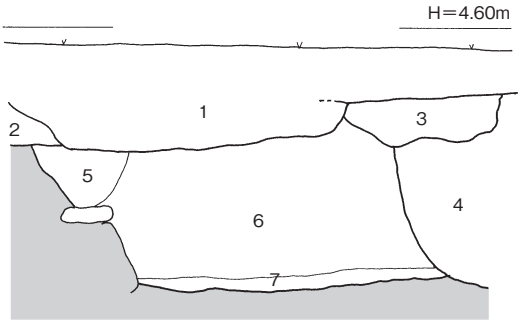
1. 暗褐色土　炭化物・焼土ブロック多く含む　別遺構
2. 暗褐色土　別遺構
3. 礫層　礫の隙間は黄色粘土が詰まる

SK2058



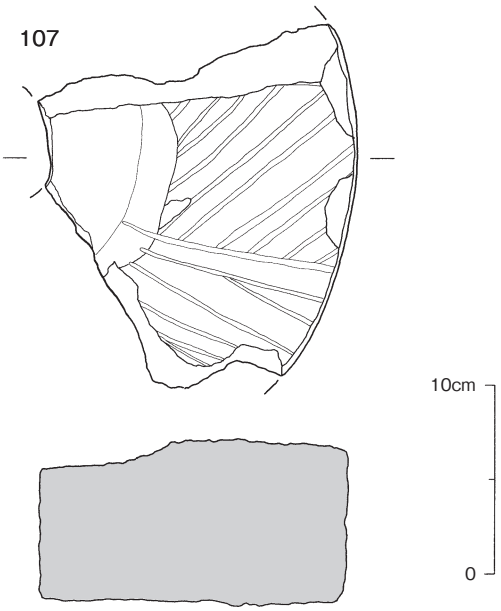
SK2035



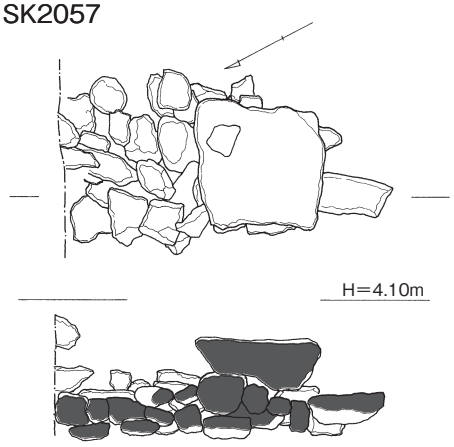


1. 現代盛土
2. 暗褐色土
3. 暗褐色土　近代～現代
4. 明褐色土　白色粘土ブロック(5～10㎜)を多量に含む　炭化物小片多く含む
5. 明褐色土
6. 褐色土　白色砂多く含む　炭化物小片多　焼土ブロック少
7. 暗灰褐色土　白色粘土(5㎜以下)と炭化物小片を多量に含む

107

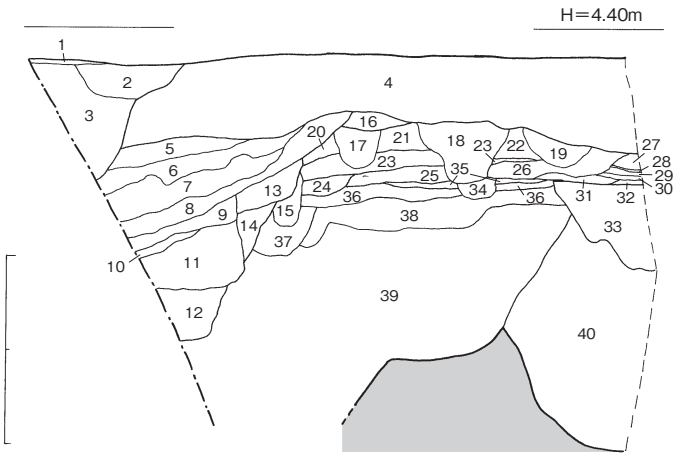


SK2057

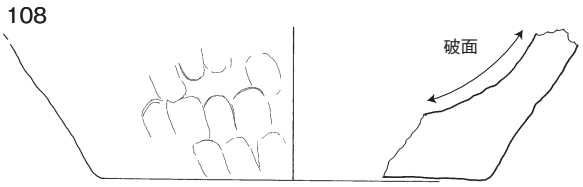


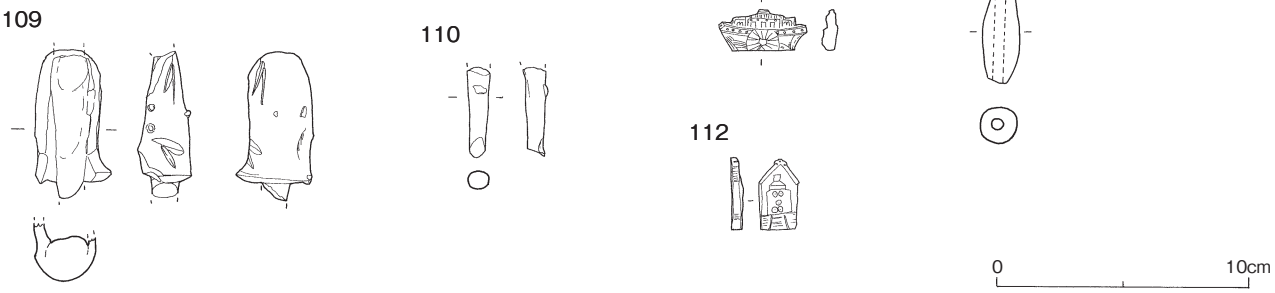
第 31 図　土坑 7（1/30・SK2057 は 1/20・1/3）

SD2001　西端部土層



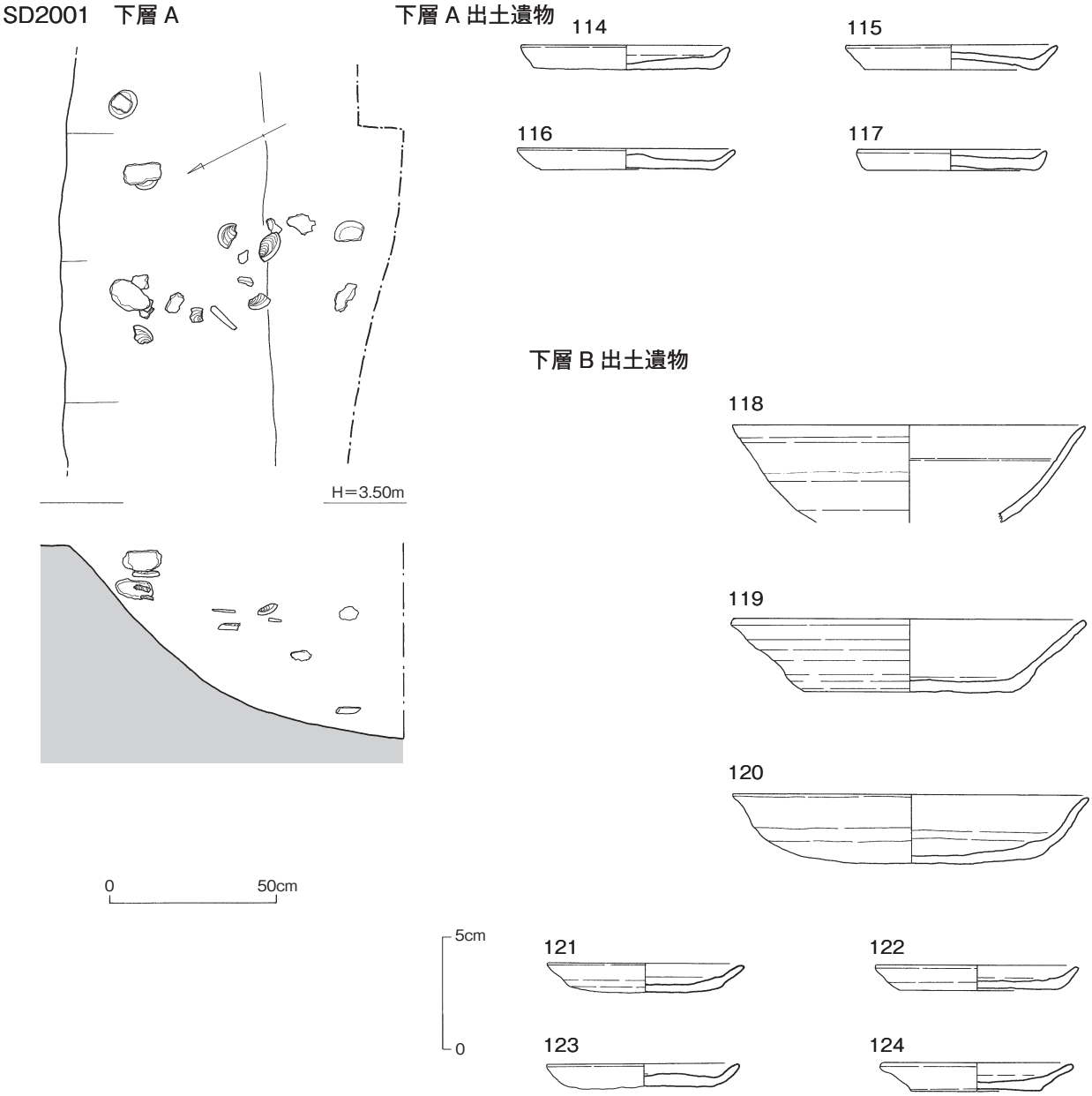
1．現代盛土
2．灰色土　現代
3．黄褐色粘土　近現代
4．近現代盛土
5．灰色土層と白色土層の互層
6．暗黄褐色粘質土
7．暗灰色土
8．暗黄褐色粘質土
9．暗灰褐色土　焼土ブロックを少量含む　近世
10．黄褐色粘土　近世
11．暗灰褐色土　白色粘土ブロック含む
12．茶灰褐色砂
13．褐色土
14．褐色土　炭化物小片多く含む
15．暗褐色土　焼土ブロック含む
16．暗褐色土
17．暗灰褐色土
18．暗灰褐色土
19．暗褐色土　白色粘土ブロック多く含む
20．白色粘土フロック層　炭化物多く含む
21．白色粘土ブロック層　炭化物多く含む
22．白色粘土ブロック層　炭化物多く含む
23．焼土ブロック整地層
24．暗灰褐色土　炭化物粉多く含む
25．茶褐色砂　炭化物層（厚さ２～３㎜）を３枚含む
26．黄褐色粘土ブロック層　焼土ブロック少量含む
27．白色粘土層
28．白色粗砂層
29．褐色土　炭化物多く含む
30．焼土ブロック層
31．灰褐色粗砂
32．炭化物層
33．灰黄褐色土
34．茶褐色砂　炭化物を多く含む
35．灰褐色土　下半に炭化物層を含む
36．茶褐色砂
37．暗茶褐色砂
38．暗褐色砂
39．灰褐色砂質土
40．茶褐色砂　水平方向の網目模様が入る





第 32 図　SD2001 実測図 1

遺構番号	性格	時代	遺物	備考
0002	土坑	13 後半～14C	白磁碗（口縁部小片）、陶器甕（胴部小片）、須恵質鉢（13C 後半～14C）、土師質擂鉢（少なくとも 3 個体）、土師坏（小片多　糸）、土師皿（小片多　糸）、土師質瓦（小片　タタキ不明）	
0018	粘土貼付け土坑		青磁小碗（底部小片）、瓦質捏鉢、瓦質椀（高台部小片）、土師坏・皿（小片　糸）、甕（古墳？）、土器玉（瓦質捏鉢小片）	いずれも小片
0066	PIT 状遺構		龍泉窯系青磁碗Ⅰ類（底部小片）、陶器大甕（不明）、陶器壺、須恵質片（鉢？）、土師坏（底部小片　糸）、土師皿（小片　糸）、土管（現代）	
0072	土坑		須恵器片、瓦質片（瓦？）、土師器片（甕？器表に煤付着）、土師坏（小片　糸）、焼粘土塊（小片）	
0096	土坑	13 世紀後半	白磁皿Ⅸ類、土師坏（底部小片　糸）	
0100	土坑	14 世紀前半	龍泉窯系青磁碗Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（14C 前）、白磁碗片、陶器盤（小片　不明）, 陶器壺（底部片２点　別個体　中型-褐釉と大型灰釉？）、陶器壺？（胴部小片　数個体）、陶器盤（小片 13C？）、須恵質甕（小片）、須恵質鉢（小片　不明）、須恵質甕（胴部片　格子）、瓦質片口鉢（注口部片　２点別個体）、土師坏（糸）、土師皿（糸）、土師質甕（胴部片　煤付着）、須恵質平瓦（縄目→ナデ）、瓦質平瓦（小片）、滑石片（石鍋再加工品か）、鉄釘？（６点）、焼けた粘土片	
0122	土坑	13 世紀	龍泉窯系青磁碗Ⅰ・Ⅱ類（小片）、白磁碗？片、青白磁小碗？（高台部小片）、陶器片（壺・甕等の小片　８点）、須恵質甕（小片数点）、土師坏（糸）、土師皿（糸）、土師椀？、土師甕？	
0122 下層	土坑	13 世紀	龍泉窯系青磁碗Ⅰ類、白磁片、土師坏（糸）、土師皿（糸）	
0163	土坑		龍泉窯系青磁碗Ⅰ類（底部片）・Ⅱ類（体部小片）、白磁碗片、陶器片（大甕片が主）、瓦質鉢？、土師質捏鉢（12C 前半？）、土師椀、土師皿（糸）	
0168（0225･0224）	井戸	14 世紀前半	龍泉窯系青磁碗Ⅱ・Ⅲ類、龍泉窯系青磁小碗Ⅲ類、白磁碗（底部片）、白磁輪花碗、白磁皿Ⅳ・Ⅸ類、陶器大甕（備前 or 渥美？）、陶器壺Ⅳ類（少なくとも 3 個体で 1 点ずつ　13C 後半）、陶器小盤Ⅱ類（13C 前）、陶器鉢Ⅰ類（13C 前）・陶器鉢（不明）、褐釉陶器注口、須恵質甕（小片　格子タタキ）、瓦質捏鉢（東播系模倣）、瓦質片口鉢（小片 3 点）、土鍋（12 後～13C）、土師坏・皿（破片多　糸）土師椀（12C）、土師質瓦？、滑石石鍋片、滑石スタンプ未製品、羽口（小片）	陶器片　多いが口縁などはほとんどなし
0174	土坑（土壙墓？）	14 世紀	龍泉窯系青磁（碗Ⅱ類・坏Ⅲ類、小碗Ⅲ類、　14C）、白磁皿、須恵質大甕、陶器壺（肩部小片）、陶器大甕片（５点　すべて別個体 1 点は常滑か？）、陶器壺片、陶器盤、須恵質甕（小片）、土師坏・皿（糸　小片多）、土鍋片、滑石製石鍋片、土師質平瓦（小片）	SE2060 と同じ甕？が数点ある。



第 33 図　SD2001 実測図 2

遺構番号	性格	時代	遺物	備考
0174 底面張り付き	土坑（土壙墓？）	14 世紀	龍泉窯系青磁碗Ⅱ類、龍泉窯系青磁小碗（輪花碗口縁部小片）、龍泉窯系青磁坏Ⅲ -4（13C 中～14C 前）、白磁ⅢIX類、陶器盤（底部片）、陶器盤（口縁Ⅰ -2 b　12C 前・Ⅰ -1'a　13C 後）、黒釉陶器大甕（胴部小片）、褐釉陶器大甕（底部片）、常滑大甕片（胴部）、須恵質捏鉢（13C 後）、須恵質大甕（口縁部、胴部片多　数個体接合せず）、土師坏（小片）、滑石石鍋片	
0174 焼土ブロック壁中	土坑（土壙墓？）	14 世紀	白磁ⅢIX類（口縁部小片）、褐釉陶器小片、土師坏・皿（糸）	
0174 掘方	土坑（土壙墓？）	14 世紀	龍泉窯系青磁碗Ⅲ類、白磁碗片、白磁ⅢIX類（完形 1 点の他口縁部小片）、白磁小皿、陶器盤（口縁部小片）、陶器小鉢？、陶器耳壺（取部小片）、陶器壺（胴部小片）、陶器水注（注口部のみ）、須恵質大甕（胴部小片 5 点　別個体）、瓦質捏鉢（12C？）、土師坏・皿（糸　小片多　土師坏 10 点以上、土師皿 20～30 点ぐらいか）、炉壁片、鉄滓、炭化物小片	土師皿は特に質が悪く焼けひずみが大きなものがある
0174・0180		14 世紀	龍泉窯系青磁碗Ⅱ・Ⅲ類（13 中～14 初）、龍泉窯系青磁皿（双魚文）、白磁ⅢIX類、陶器大甕小片、陶器盤、土師坏・皿（糸　小片多）	
0175			陶器片（壺や大甕の胴部片）、土師椀（高台部のみ）、土師坏・皿（糸　調整など雑）	
0225	井戸		白磁碗Ⅴ類？、陶器盤（底部片 12C）、陶器大甕（小片 1 点）	
0225 上層	井戸		陶器甕（小片 3 点　別個体）、須恵質甕、土師椀（底部片）、土師坏（糸）、須恵質平瓦（ナデ）	
0225 井筒	井戸		白磁碗片、陶器鉢（口縁部小片）、陶器捏鉢？、陶器片、瓦器椀（底部片）、瓦質土器片、土師坏・皿（小片　糸）	
0225 掘方	井戸		白磁碗Ⅷ類、陶器壺（底部片）、陶器盤Ⅰ類（12C 前）、須恵質甕（底部片）、須恵質捏鉢（12C 後）、土師坏・皿（糸　小片）、土器片	
0226	井戸	13C	龍泉窯系青磁碗Ⅱ類（13C）、白磁碗Ⅳ類、陶器盤Ⅰ -2 b（口縁部小片　12C 前）、陶器片（壺や大甕の胴部片）、土師椀（高台部のみ）、土師坏・皿（糸　小片多）	
0226 掘方	井戸	13C	土器小片	
0271	土坑	中世	龍泉窯系青磁碗Ⅰ類（底部片）、土師椀、土師坏・皿（糸）、刀子	
0295	土坑	中世	土師坏（糸　底部片 1 点）、土師皿（糸　完形 1 点　小片 1 点）	
0336	井戸	中世	白磁碗片、土鍋？（口縁部小片）、土師坏・皿（小片）、炉壁小片	

遺構番号	性格	時代	遺物	備考
0350	土坑	12 紀世後半	白磁碗片、 白磁皿Ⅷ類（12C 後）、 陶器大甕（底部片、 胴部小片）、 黒色土器 B 類椀（底部片 11C？）、土師坏・皿（小片　糸）、須恵器片（甕？）、滑石片、瓦器椀（底部片　11～12C）、土師椀（小片）、土師皿（小片多　糸 - 多　ヘラ-少）	
0350 ベルト	土坑	13 世紀	白磁碗小片、陶器耳壺Ⅵ類（13C）、陶器大甕（胴部片）、須恵質捏鉢（（12C 中頃）、瓦器椀片、土師甕（胴部片　外面に煤）、土師坏・皿（破片多 - 糸　少 - ヘラ）、滑石片	
0358	井戸	11 世紀	白磁碗Ⅳ類、黒色土器椀 B 類（口縁部小片）、土師椀（小片多　11C）、土師坏・皿（小片多　ヘラ・糸）、須恵質丸瓦（タタキは斜ヶ浦タイプ）、須恵質平瓦、椀型滓	
0377	井戸	11 世紀後半	白磁碗Ⅳ類片、土師坏・皿（小片　糸・ヘラ）	
0379		12 世紀？	白磁碗Ⅳ類片、須恵質大甕（胴部片）、土師坏・皿（小片　糸-多　ヘラ - 少）	
0380	土坑	12 世紀	白磁碗Ⅴ類片、須恵器片、土師坏・皿（糸）	
0390	土坑	11～12 前？	須恵質坏？（底部片　糸）、瓦質捏鉢？、土鍋？片、土師坏・皿（ヘラ少・糸多）	
0391	土坑	11～12 世紀？	須恵質平？瓦（斜格子　古代）、須恵質大甕（胴部片）、黒色土器 B 類、土師椀、土師坏・皿（糸・ヘラ）	
0392（0358）			瓦質坏？（糸　小片）、土師坏（底部片 1 点　ヘラ）、土師皿（底部片 1 点　ヘラ）	
0393		中世	土師坏・皿（ヘラ・糸）	
2001 上層	溝	近世～近代	近世陶磁（蓋、小碗、ぐい呑みなど）、龍泉窯系青磁碗Ⅰ・Ⅲ類碗・Ⅲ類坏、白磁碗Ⅳ類、白磁皿Ⅸ類、陶器壺？、須恵質捏鉢（13C 後）土製人形片、瓦質火鉢、瓦質捏鉢（13C）、陶器片、土師坏・皿（破片多　糸）、土師質高台付盤（大型坏？　内面に炭化物付着）、七輪、滑石片、砂岩製大鉢？、土師質平瓦、須恵質平瓦（小片　古代）	上層下層とも土師坏・皿の出土量は多く祭祀に伴うものと思われる
2001 下層	溝	中世	龍泉窯系青磁碗Ⅰ類、白磁碗Ⅳ・Ⅴ類、白磁皿Ⅸ -3、白磁紅皿、天目碗（小片）、陶器盤、陶器鉢、茶褐釉陶器大甕（底部片）、須恵質甕、土師坏・皿（小片多　糸 - 多　ヘラ - 少）、土鍋（12C 中）、土師質捏鉢（12C 中）、土師質平瓦（縄目圧痕）、土師質丸瓦（小斜格子）、炉壁（小片）、鉄滓	
2001 下層 A	土器溜り	12 世紀	陶器小碗、瓦質平瓦（ナデ）、土師坏（糸　破片少）、土師皿（破片多　糸 - 多　ヘラ - 少）	
2001 下層 B	土器溜り	13～14 世紀	白磁碗Ⅴ類、瓦器椀（底部小片）、土師坏（破片多　ヘラ少）、土師皿（破片多量　ヘラ - 少）	土師皿はほぼ完形が 7 点、 全部で 3～40 点前後か
2027		中世	陶器盤？（小片）、土師質甕？、土師皿（糸？）	小片のみ
2033	土坑	13 世紀	龍泉窯系青磁碗Ⅱ類、土師坏（糸）、土師皿（糸）	
2034		14 世紀前半	龍泉窯系青磁碗Ⅲ類、白磁碗片、陶器盤（13C）、陶器鉢、陶器壺（胴部小片　数個体）、陶器大甕（小片）、須恵器甕（口縁小片）、須恵質捏鉢？、土師坏・皿（糸）	陶器大甕類は 2060 と同一個体の可能性有り。
2035	礎石基礎	13 世紀以降	白磁片、陶器小盤Ⅱ類（13C）、褐釉陶器（小片）、陶器壺？、須恵質捏鉢？、須恵器坏？、土師椀？、土師坏・皿（糸）、土鍋？、炉壁	いずれも小片
2054		14 世紀以降	龍泉窯系青磁碗、龍泉窯系青磁坏Ⅲ類（13 後～14C 前）、白磁皿、陶器壺（底部片　13C 後）、土鍋（14C 前？）、土師坏・皿（小片多　糸）、土師器高台付皿	いずれも小片　土師皿 1 点完形近く復原）
2055 一段下げ	井戸	14 世紀以降	龍泉窯系青磁碗Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ類（14C）、龍泉窯系青磁坏、白磁蓋、白磁皿Ⅸ類、白磁壺、陶器壺（13C 後）、陶器甕、陶器片（多　特に大甕、盤など）、須恵質大甕、須恵質捏鉢（14C）、瓦質捏鉢、土師椀、土師質甕、土師坏・皿（破片多　糸）、須恵質丸瓦（縄目）、須恵質平瓦、土師質平瓦（ナデ？）、滑石製石鍋片、炉壁	
2055 上半	井戸	13 世紀以降	龍泉窯系青磁碗Ⅱ類、 白磁小碗、 白磁皿Ⅸ類、 常滑大甕（13～14C）、 陶器盤、 陶器壺（12～13C）、陶器片（甕、壺など）、瓦質片口捏鉢、土師坏・皿（小片　糸）	
2055	井戸		龍泉窯系青磁碗Ⅱ類、青磁小碗、白磁皿Ⅷ類？、陶器壺・耳壺（胴部片）、陶器盤（13C）、須恵質大甕、須恵質捏鉢（13C 後半）、瓦質捏鉢、瓦質捏鉢、土師坏・皿（小片多　糸）、滑石製人形（石鍋再加工）、須恵質平瓦（ナデ？）	
2055 井筒	井戸		龍泉窯系青磁碗Ⅰ・Ⅱ類、白磁片（碗、壺）、白磁皿Ⅸ類、陶器盤Ⅰ・Ⅱ類（13C）、陶器小盤Ⅰ類（12C 前）、陶器片（壺、盤など）、陶器大甕（胴部片）須恵器蓋摘（7～8C）、須恵質甕（胴部片　格子）、、瓦質捏鉢（14C？）、瓦質擂鉢、瓦器椀、土師坏・皿（小片多　糸）、土師質甕、瓦質平瓦（瓦頭の一部？）、滑石製石鍋片	
2055 掘方	井戸		龍泉窯系青磁碗、白磁碗Ⅳ類、陶器盤、陶器小盤（12C？）、陶器小碗、茶褐釉陶器（小片のみ　壺・甕　13C？）、瓦質甕？、土鍋（胴部片）、土師坏・皿（小片　糸）、滑石石鍋片、須恵質平瓦	
2055・2095	井戸		龍泉窯系青磁小碗（口縁小片）、陶器碗、陶器壺（胴部小片）、瓦質甕（胴部）、土師質甕？、土師椀、土師皿・坏（糸）	
2056	2060 の井筒	14 世紀	龍泉窯系青磁碗Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ類。青磁皿Ⅰ類、白磁皿Ⅸ類、白磁皿片、常滑甕（肩部）、褐釉陶器片、陶器鉢、陶器耳壺、須恵器鉢（東播系）、須恵質丸瓦（ナデ）、瓦器椀、土師椀（少　小片）、土師坏（破片多　糸切り）、土師皿（破片多　糸切り）、土師質鉢（13C）、丸瓦（土師質　ナデ）、土錘	
2056 一段下げ			龍泉窯系青磁碗Ⅱ類、青磁皿、白磁碗Ⅳ類、陶器壺、陶器鉢、須恵質片、土師坏（破片多　糸）、土師皿（破片多　糸）、高台付土師皿（少）、土師質平瓦（斜格子）	
2056・2063			龍泉窯系青磁小碗（14C 前）、青磁片、白磁片、褐釉陶器（甕？、壺）、須恵質甕、須恵質鉢、陶器四耳壺（耳のみ）、土師坏（糸）、土師皿（糸）、土師質高台付坏、蛸壺片	
2057	礎石基礎	12C 末～13C	陶器片（甕？）、須恵質捏鉢（12C 末～13C）、土師坏・皿（小片）、	
2058	石室	14 世紀以降	龍泉窯系青磁碗Ⅳ類、龍泉窯系青磁小碗（13～14C）、白磁小碗（小片）、陶器盤、陶器壺（13C）、陶器甕、瓦器椀、瓦質捏鉢（12C）、瓦質甕、土鍋、土師椀、土師皿・坏（小片多　糸）、土器片、炉壁、	
2060	井筒（掘方 2056）	14 世紀	青白磁碗（小片）、龍泉窯系青磁碗Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ類（Ⅱ類は見込みにスタンプ）、龍泉窯系青磁坏Ⅲ類（数個体　接合せず　1 点は双魚文　13C 中～14C 初）、白磁碗Ⅸ類、白磁碗（小片　内面に草花文スタンプ　精品）、白磁皿Ⅸ類、白磁鉢、白磁壺（13～14C）、白磁合子、褐釉合子、常滑大甕（陶質 5 点前後　1 個体の破片は少ない、 須恵質　2 点、 うち 1 点は焼きが悪く瓦質っぽい　時期差あり 12～14C）、陶器甕Ⅲ類（13C）、陶器盤（13 後～14C）、須恵質鉢（13C）、黒釉陶器甕（底部片）、瓦質大甕、滑石石鍋片（12～13C）、軽石（未加工）、炉壁（？）	
2063 上半	井戸？	12 世紀？	龍泉窯系青磁碗Ⅲ類、青磁皿、白磁碗、白磁壺Ⅲ類（11C 後～12C 前半）、白磁皿Ⅵ類、陶器大甕、陶器壺、陶器鉢、須恵質捏鉢（12C 後）、瓦器椀、土師坏・皿（小片多　糸）、須恵質平瓦（縄目）、土師質平瓦（ナデ）	
2063	井戸？		龍泉窯系青磁碗Ⅲ類、陶器盤、陶器甕、土師椀、焼土塊、	
2095	井戸		陶器水注（注口部）、陶器盤、陶器甕？、土師器甕、土師椀、土師坏・皿（糸）	
2095 曲げ物外側	井戸堀方		陶器片、土師椀、土師坏・皿（糸・ヘラ）、土師甕（古墳時代？）、滑石片、蛸壺	
2095 掘方	井戸		龍泉窯系青磁碗Ⅰ類、白磁皿Ⅵ類（12C）、陶器盤茶褐釉陶器耳壺、須恵器片、瓦器椀、土鍋（12C 中頃）、高台付き土師坏、土師坏・皿（破片多　糸－多　ヘラ - 少）、土師質高坏脚部、蛸壺、須恵質平瓦（古代）	
2096	井戸	13 世紀	龍泉窯系青磁碗Ⅱ類、白磁碗Ⅸ類、陶器片（甕・壺など）、須恵質捏鉢（12～13C）、瓦器椀、土師椀、土師坏・皿（小片多　糸）、土鍋？、滑石製石鍋片、須恵質平瓦（縄目）、炉壁	
2097	井戸	中世	土器片（小片 2 点）	
2139		中世	白磁碗片、土師坏・皿（糸）	
2139 周		中世	白磁片（壺？・碗）、土師坏・皿（破片多　糸）	
2139・2145		中世	土師皿（糸）	
2154		12 世紀	白磁碗（Ⅳ・Ⅴ類）、同安窯系青磁皿、陶器片、須恵質大甕（胴部片）、瓦器椀、土師椀、土師坏・皿（糸）、滑石製石鍋片、須恵質平瓦（縄目、格子、斜格子）、土師質平瓦	
2154 周		古代末～中世	土師質甕、瓦器椀、土師坏・皿（糸）	
2173			陶器片、土師皿片、鉄滓	
2199 上半			龍泉窯系青磁碗Ⅰ類、白磁蓋、土師坏（多　糸）、土師皿（糸）	
2210			飯蛸壺集中出土	

1）Ⅰ区 1 面全景（西から）

2）Ⅱ区 1 面全景（東から）

図版２

1）Ⅰ区２面全景（西から）

2）Ⅱ区２面全景（東から）

1）Ⅰ区３面全景（西から）

2）Ⅱ区３面全景（東から）

図版４

1）Ⅰ区４面南半（西から）

2）Ⅱ区４面南半（東から）

1）Ⅰ区５面南半（西から）

2）Ⅰ区５面北半（西から）

図版６

1）Ⅱ区６面南半（東から）

2）SE2055（北から）

3）SE0225（西から）

4）SE0226（北から）

5）SE0336 井筒（東から）

1）SE2060（北東から）

2）SK0122 上半土層（東から）

3）SK0122 下半土層（東から）

4）SK0122 完掘（北から）

5）SK0174 上面（西から）

6）SK0174 焼土面上遺物出土状況（南から）

7）SK0174 焼土面（南から）

8）SK0174 下層（西北から）

図版８

1）0066（0097）（北から）

2）0072（東から）

3）0096（東から）

4）0156（北から）

5）0175 検出状況（北から）

6）2027（北から）

7）2033（東から）

8）2139（西から）

1）0278（北から）

2）0295（南西から）

3）2173（北から）

4）2199（北から）

5）SK0162（南から）

6）SK2035（北から）

7）SK2057（西から）

8）SK2058（南から）

1）0182 土層（北から）

2）SE2060 石臼出土状況

3）2210 蛸壺出土状況（東から）

4）SD2001 土層（東から）

5）2001 下層 B（南から）

1）調査区東壁南半（西から）

2）焼土ブロック整地層下白色粘土整地層上面遺構検出状況（西から）

図版 12

1）調査区東壁土層部分 1

2）調査区東壁土層部分 2

報 告 書 抄 録

ふ り が な	はこざき　60
書　　名	箱崎　60
副 書 名	箱崎遺跡第 95 次調査報告
シ リ ー ズ 名	福岡市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第 1425 集
編 著 者 名	屋山洋
編 集 機 関	福岡市教育委員会
所 在 地	福岡市中央区天神 1 丁目 8 － 1
発 行 年 月 日	2021 年 3 月 25 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
箱崎遺跡（はこざきいせき）	福岡市東区箱崎（ふくおかしひがしくはこざき）1丁目2672，2684－1	40131	2639	33° 37′ 0″	130° 25′ 28″	20190311 ～ 20190529	186㎡	共同住宅建設

	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
	集落	古代～近世	井戸・溝・土坑	古代土師器・須恵器・貿易陶磁・近世陶磁	

要　約	箱崎遺跡は博多湾に面し、南北に延びる砂丘上に立地する。今回の 95 次調査区は西側に向かって傾斜する斜面上に位置するが、調査区内では砂丘面が南側に向かって傾斜しており、250 m南の箱崎宮との間に浅い谷があるものと思われる。砂丘面は調査区北端で標高 3.5 m、南端で 3.0 mと 50㎝の高低差があるが、平安時代末から鎌倉時代前期頃に盛土を行い、ほぼ平坦となっている。この盛土に伴う建物などは検出されておらず、盛土の目的は現在不明である。盛土上には厚さ 1 ～ 7㎝前後の整地層が何層か見られる。13 世紀後半頃には火災に伴う厚さ 10㎝強の焼土ブロックによる整地層がみられる。その上にも厚さ数㎝の整地層が続き 14 世紀中頃には GL-40㎝（標高4.1 m）ぐらいまで嵩上げされるが、その頃に栗石を伴う礎石が2基みられる。礎石は後世の井戸によりほとんどが削平されて建物規模は不明である。また。13 世紀後半頃から井戸が集中して掘られるようになり、調査区西側で多数の井戸が出土した。SE2060 の井筒中層からは 14 世紀中頃の常滑甕を中心とする陶器甕片が多く出土した他、礎石のような平らな礫が焼土とともに多く出土した。調査区南縁に沿って溝状の掘り込みを確認したが、中世から近世・近代まで何度も掘り直されており、その中には中世の土師皿廃棄土坑なども確認した。

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1425集

箱崎60

－箱崎遺跡第95次調査報告－

2021年(令和3年)3月25日

発　　行　福岡市教育委員会
　　福岡市中央区天神1丁目8－1

印　　刷　株式会社ミドリ印刷
　　福岡市博多区博多駅南6－17－12

箱崎60

―箱崎遺跡第95次調査報告―

福岡市埋蔵文化財調査報告書1425集

二〇二一

福岡市教育委員会